

取扱説明書は車のなかに必ず保管して下さい

本社・工場 / 〒950-0322 新潟市江南区両川1丁目3604番地12	大阪 ☎06 (6305) 7174 FAX06 (6305) 1340
☎025 (280) 7111 FAX025 (280) 7110	名古屋 ☎052 (753) 6351 FAX052 (753) 6381
The head office and the factory; 1-3604-12 Ryokawa, Niigata-shi. 950-0322	札幌 ☎011 (862) 4708 FAX011 (864) 6933
東京 / 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-3-13	仙台 ☎022 (771) 7321 FAX022 (771) 7320
☎03 (3518) 8889 FAX03 (5281) 1020	新潟 ☎025 (280) 7111 FAX025 (280) 7110
Tokyo office; 2-3-13 kanda ogawacyo chiyoda-ku. Tokyo. 101-0052	金沢 ☎076 (298) 3375 FAX076 (298) 3450

●インターネットホームページ <http://www.kitamurass.co.jp>

 株式会社 **北村製作所**
KITAMURA MANUFACTURING CO.,LTD.

2018-6 500

引き出しリフト

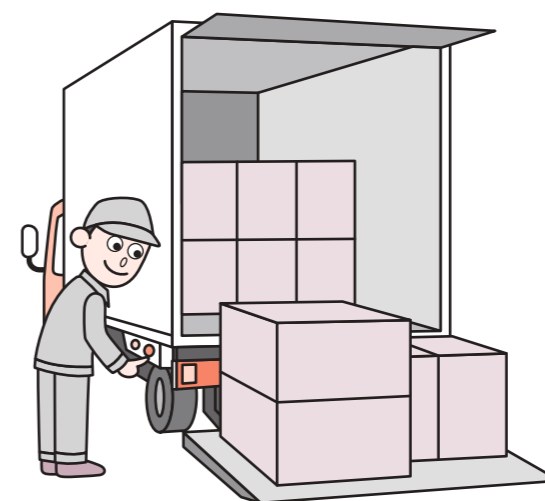


HIKIDASHI LIFT

- 型式：PH-06
(リフト能力：600kg)
- 型式：PH-08
(リフト能力：800kg)

取扱説明書

ご使用前に本書を必ずお読み下さい
取扱説明書は車の中に保管しましょう






 株式会社 **北村製作所**


まえがき

このたびは引き出しリフトをお買い上げ頂きありがとうございます。
本書は引き出しリフトの操作、点検、および整備の方法について説明しています。
引き出しリフトを操作する前に本書をよく読んで、十分に理解してからご使用下さい。

- **必読! 厳守事項** △ **危険** △ **警告** △ **注意** は特に重要な事項ですので必ず読んで守って下さい。これらを守らないと事故につながったり、けがをしたり、車が損傷する等の恐れがあります。
- 本書および製品に貼り付けたコーションプレートは次の3段階で区分し表示してあります。

 危険	取り扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合
 警告	取り扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合
 注意	取り扱いを誤ると、使用者が傷害を負う危険が想定される場合、または物的損害の発生が想定される場合

- 守って頂きたいことや、知っておくと便利な内容を記載しています。

	取り扱い、操作方法、点検整備などに関して、参考となる事項について記載してあります。
---	---

- 使用者が変更になる場合は、次の使用者のために本書を車両につけておいて下さい。
- ご不明な点がありましたら巻末に記載の支店・営業所までお問い合わせ下さい。
- 仕様などの変更により、本書の内容と車両が一致しない場合があります。あらかじめご了承下さい。
- 引き出しリフトを改造したり本書に記載のない修理を行うことは安全に関して重大な影響を及ぼすおそれがあります。決して勝手な改造や修理を行わないで下さい。
- リフトの取り扱いに関する法令は、道路交通法、道路交通法施行令、労働安全衛生規則で記載されています。

— 目次 CONTENTS —

1. 必読! 厳守事項	1
● コーションプレートの貼付け位置と内容	1
● 作業時の注意事項	3
● 走行時の注意事項	9
● 点検整備時の注意事項	10
2. 概要説明	11
● 引き出しリフトの特徴	11
● 各部の名称	12
3. 操作説明	13
● 作業準備	13
● 引き出し式乗降ステップの使用方法	14
● リフトテーブルを引き出す	15
● リフトテーブルを下降させる	17
● リフトテーブルを上昇させる	19
● キャスターストッパーの使用方法	22
● リフトテーブルを格納する	26
● 車両の走行について	30
● 室内リモコンスイッチについて	32
4. 点検・整備	33
● 日常(運行前)点検	33
● 定期点検	33
● 日常(運行前)及び定期点検表	34
● ワイヤの点検と交換	36
● リフトテーブルのスライドBKT取付ボルトの点検	40
● 給油・給脂	41
● 洗車	45
● ヒューズ	46
● 配線図・配管図	47
● 配線図	48
● トラブルチェック	49
● よくあるトラブル事例	54
5. アフターサービス	55
● 補修用部品	55
● 点検・修理・保証	56

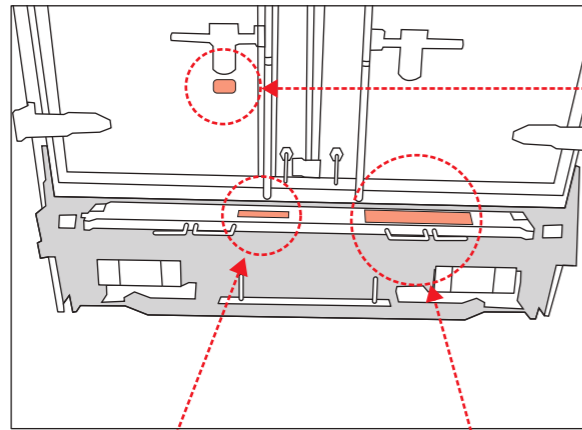
1. 必読! 厳守事項

●コーションプレートの貼付位置と内容

引き出しリフトには、コーションプレートが貼付けられています。

コーションプレートには、引き出しリフトを安全にご使用いただくための重要な情報が記載されています。

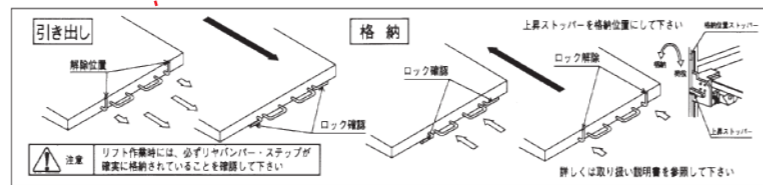
引き出しリフトをご使用になる前に内容を十分理解していただき、安全な作業を心がけて下さい。また、記載事項がみにくくなった際は新しいものと交換して下さい。



「荷室内閉じこまれ注意」

注意

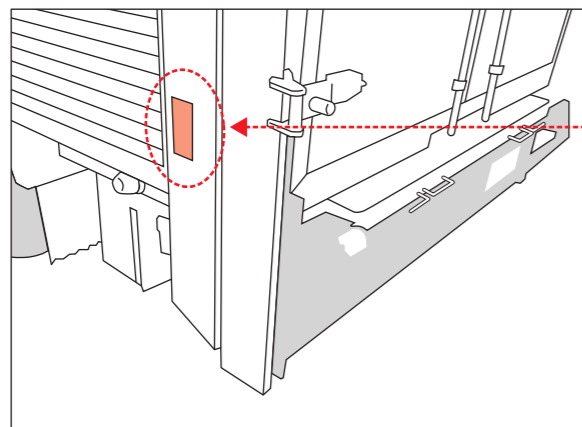
- ・室内を確認し確実にロックして下さい。
- ・ホーンが鳴りつづけたらただちに荷物室内に人がいないか確かめて下さい。



「リフトテーブルの引き出し・格納方法」

ここに手を乗せないこと

「手のせ禁止」



「はさまれ注意」

注意



手や足をはさまれないよう注意!!

1. 必読! 厳守事項

「PH-06能力」

HIKIDASHI LIFT

型式 PH-06
能力 600 kg

積載能力表

600	350	200 kg
450	700	
800		mm

取扱説明書をよく読んで正しく理解して操作して下さい。

Kitamura NO-04(600kg)

「PH-08能力」

HIKIDASHI LIFT

型式 PH-08
能力 800 kg

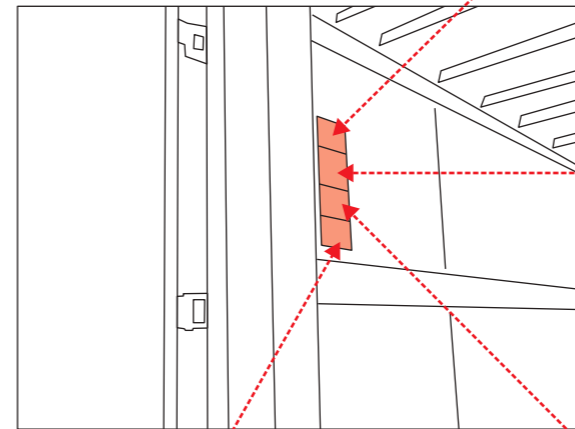
積載能力表

800	475	200 kg
450	700	
900		mm

取扱説明書をよく読んで正しく理解して操作して下さい。

Kitamura NO-04-1

「荷室内」



「一般注意事項」

- 御使用前に
 - ・回転部の給油、給脂は毎週1回行って下さい。
 - ・損傷がないか点検して下さい。
 - ・周囲や御自身の安全に充分注意して下さい。
 - ・空操作を行い、正常に機能するかをお確かめ下さい。
 - ・車輪止め（オプション）が確実に起き上がっていることをお確かめ下さい。
- 注意
 - ・積載能力を超えて積まないで下さい。
 - ・荷物は必ず黄線内に積載して下さい。
 - ・荷物は偏心させて積まないで下さい。
 - ・床面を昇した後も操作ボタンを押し続けるとモーター焼損の原因となります。
 - ・荷役作業は30秒以上の連続運転を行わないで下さい。

NO-20

ワイヤーの点検・交換について

リフトテーブルはワイヤーで支えられています。ワイヤーが切断すると重大事故につながります。

- ◎定期点検・交換
 - ・1週間に1度ワイヤーに給脂して下さい。
 - ・3ヶ月毎にワイヤーの摩耗や損傷の有無を確認し異常がある時は使用を中止し、交換して下さい。
 - ・ワイヤーに損傷が無い場合でも必ず2年毎に交換して下さい。
- ◎ワイヤーは北村純正品を御使用下さい。
- ・ワイヤーの御注文はボデー右側のプレート番号を連絡して下さい。

NO-22

「ワイヤーの点検・交換」

作動油について

油量の不足・油の汚れは故障の原因となりますので下記事項に御注意下さい。

- ◎日常点検
 - ・レベルゲージにより油量を点検して不足の場合は補充して下さい。
- ◎定期点検
 - ・購入後3ヶ月、それ以降は6ヶ月に1回油を交換して下さい。
 - ・使用頻度が多く汚れが著しかったり、粘度が異常に変化したときは随時交換して下さい。
- ◎作動油の種類
 - ・指定された作動油（取扱説明書参照）を御使用下さい。

NO-21

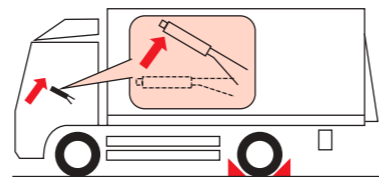
「作動油」

1. 必読! 厳守事項

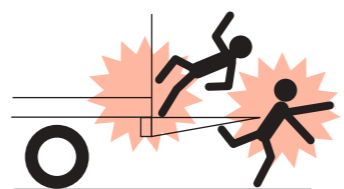
●作業時の注意事項



- リフトの操作を行う前に、車両の駐車ブレーキが確実に効いていることを確認して下さい。また、車輪には輪止めをしてから作業を開始して下さい。車両が前後に移動し、思わぬ事故につながる恐れがあります。



- リフトを操作するときは、車両の周辺に人がいないことを確認して下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。

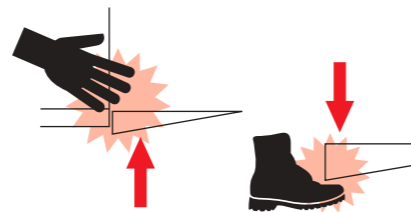


- リフトの操作は、不整地や傾斜地では行わないで下さい。積荷の転倒・落下によって、人が重大な傷害を受ける恐れがあります。

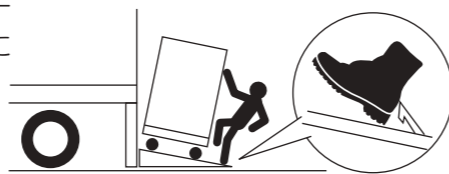


- リフトの操作は、リフトの作動が目視できる位置で行って下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。

- リフトを操作するときは、リフトの作動部に手や足を近づけないで下さい。作動部に手や足をはさまれ、人が重大な障害を受ける恐れがあります。



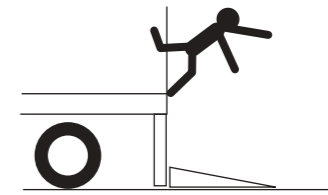
- リフトテーブルに積荷を載せるときは、キャストーストッパの突起部分に注意して下さい。転倒などによって、思わぬ事故につながる恐れがあります。



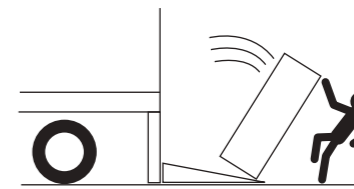
1. 必読! 厳守事項



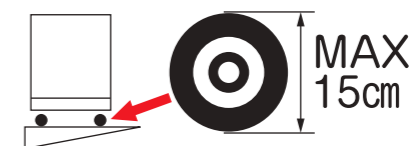
- リフトテーブルを車両床面より下げているときは、荷台とリフトテーブルの段差に注意して下さい。人が車両床面から落下し、重大な傷害を受ける恐れがあります。



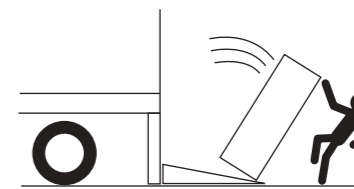
- 積荷は転倒、落下しないようにバランスよくのせて下さい。また、車輪が付いている台車等は、自走して落下しやすくなりますので作業時はキャストーストッパ付リフトの場合は、キャストーストッパを使用して下さい。



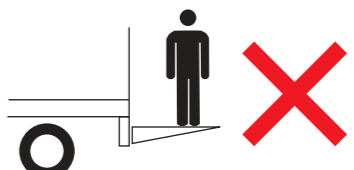
- 台車の車輪は、直径15cm以下のものを使用して下さい。台車の車輪がキャストーストッパを乗り越えて、積荷の落下、転倒などによって思わぬ事故につながる恐れがあります。



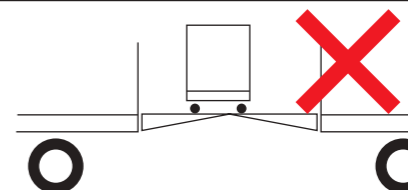
- 台車を積み降ろすときは、キャストーストッパ付リフトテーブルではキャストーストッパを使用して下さい。キャストーストッパを使用せずに台車を積み降ろすと、台車の落下・転倒などによって思わぬ事故につながる恐れがあります。



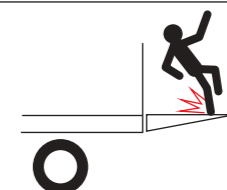
- リフトを操作するときは、リフトテーブルの上に乗らないで下さい。台車の転倒や人の落下によって、思わぬ事故につながる恐れがあります。



- 2台のリフトを向い合せた状態で、台車を移動させないで下さい。台車の転倒によって、人が重大な傷害を受ける恐れがあります。また、リフトテーブルの破損、故障の原因になります。



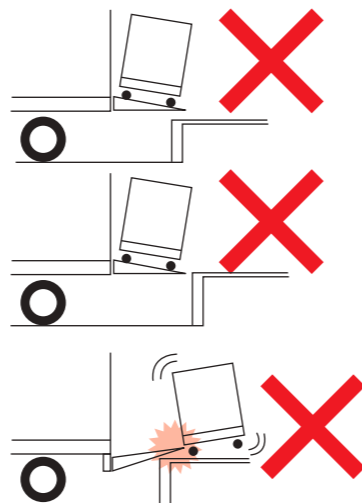
- リフトテーブルが滑りやすいときは、転倒、転落に注意して慎重に作業して下さい。積雪時、結氷時、降雨時は特に滑りやすいので足元に注意して荷役作業を行って下さい。



1. 必読! 厳守事項

⚠ 警告

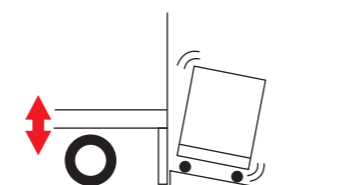
- リフトテーブルをターミナルフロアに掛ける場合リフトテーブル先端をターミナルフロアに接地させて下さい。リフトテーブル先端を接地させずに荷移しを行うと、台車の転倒等によって、人が重大な傷害を受ける恐れがあります。また、リフトテーブルの破損、故障の原因になります。



- リフトを下げるときは、リフト着地後車両のバネが戻るまでスイッチの「下げ」操作を続けて下さい。(リフト着地後2~3秒が目安) 車両のバネが戻らないまま台車を降ろすと、リフトテーブルが浮き上がり、台車が転倒する恐れがあります。



- エアサス車で台車を積み降ろしする際、車高調整システムにより車両とリフトテーブルが上下動して台車が不安定になることがあります。台車はゆっくりと押し、勢いよく移動させないようにして下さい。台車の転倒などによって、人が重大な傷害を受ける恐れがあります。



- 荷台およびリフトテーブルの上では、台車を引きながら移動させないで下さい。台車の転倒などによって、人が重大な傷害を受ける恐れがあります。

- 台車を移動させるときは、ゆっくり押しして下さい。台車の落下、転倒などによって、思わぬ事故につながる恐れがあります。

- ワイヤレスリモコン (オプション) を使用中はコード付きリモコンを使用しないで下さい。また、コード付きリモコン使用中はワイヤレスリモコン (オプション) を使用しないで下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。

- 1台のリフトに対して、2台以上のワイヤレスリモコン送信機 (オプション) で同時操作を行わないで下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。

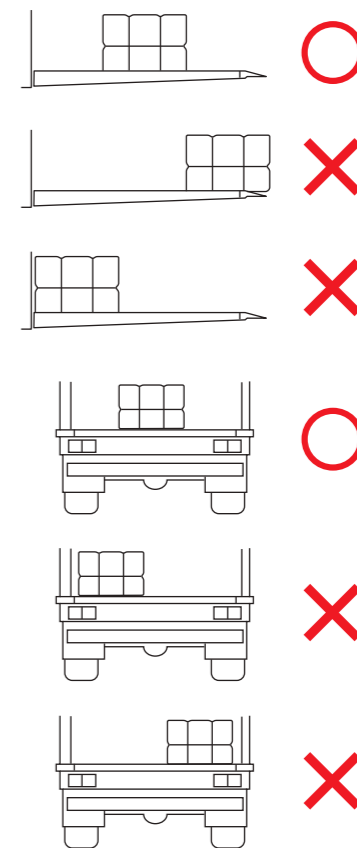
1. 必読! 厳守事項

⚠ 警告

- 他のリフト用ワイヤレスリモコン送信機 (オプション) で操作しないで下さい。操作したいリフトが作動せずに他のリフトが作動することがあり、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ワイヤレスリモコン送信機 (オプション) カバーのマグネットは強力です。心臓ペースメーカー等の体内植込型医療用電子機器を装着している方は使用しないで下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

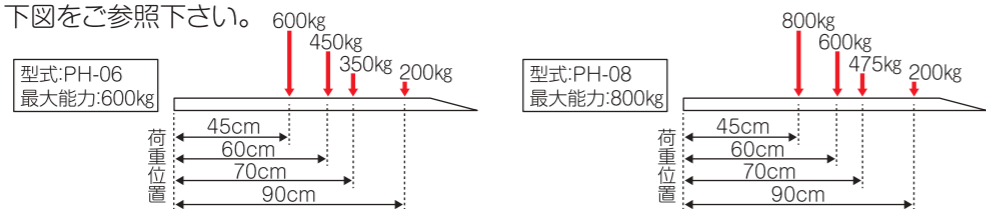
- リフトの操作を行うときは、積荷の落下、転倒等の恐れがありますので、次のことを必ず守って下さい。
 - ① 積荷はリフトテーブルの中央に載せて、片側に偏らないこと
 - ② 積荷はリフトテーブルからはみ出さないこと
 - ③ 積荷の重心は低くなるようにし、不安定な積み方は避けること
 - ④ 車両の後部の左側または右側で操作すること



1. 必読! 厳守事項

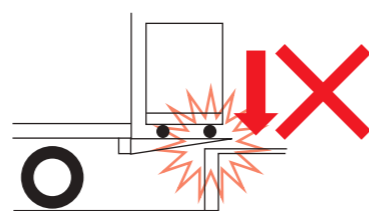
⚠ 注意

- リフトテーブルの最大荷重を守って下さい。
最大荷重を超える積荷を載せると、思わぬ破損、故障の原因となります。
- リフトテーブルの最大荷重は、積荷を載せる位置によって異なります。
下図をご参照下さい。

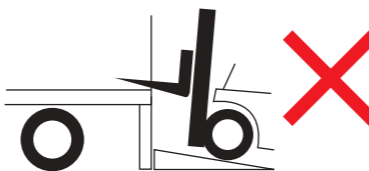


- 作業時は必ずドアをストッパーで固定して下さい。風のおおりや、作業地の状況により、不意にドアが動いて装置の損傷や思わぬ事故につながる恐れがあります。

- 荷物を載せた状態で、下げながらリフトテーブルをターミナルフロアに掛ける時は、ターミナルフロア直前で停止させ、ゆっくりとリフトテーブルを掛けて下さい。
勢いよくリフトテーブルをターミナルフロアに掛けると、リフトテーブルの破損、故障の原因になります。



- リフトテーブルには、フォークリフト等で乗り上げないで下さい。
リフトテーブルの破損、故障の原因となります。

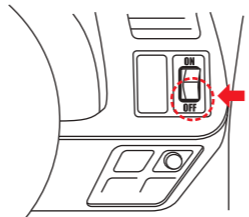


- リフトスイッチは、20秒以上押し続けしないで下さい。
破損、故障の原因となります。

- 「上」スイッチは上昇中に到達後2秒以内に離して下さい。
押し続けると、パワーユニット内のモーター温度が上昇し、モーターが損傷する恐れがあります。

- 短時間で繰り返し昇降操作を行うと、モーター温度が上昇し、モーターが損傷する恐れがあります。

- リフトの作業終了後は、メインスイッチを「OFF」にして下さい。
リフトが誤作動し、思わぬ事故につながる恐れがあります。



1. 必読! 厳守事項

⚠ 注意

- 次のようなときは、ワイヤレスリモコン (オプション) が操作不能になることがあります。
時間を置いて操作するか、コード付リモコンにて操作して下さい。
①他のワイヤレスリモコンが近くで使用されている。
②他の無線機器が近くで使用されている。

- ワイヤレスリモコン (オプション) を直射日光の当たる場所等の温度が異常に高くなる場所に放置しないで下さい。故障の原因となります。ダッシュボード内に収納して下さい。

- ワイヤレスリモコン (オプション) を長期間使用しない場合、電池を外して下さい。液漏れの原因となります。

- ワイヤレスリモコン (オプション) のカバーを取り付けて使用して下さい。外して使用された場合、落下などの衝撃によって故障する場合があります。

- ワイヤレスリモコン (オプション) カバーのマグネットについて以下に注意して下さい。
①ワイヤレスリモコン (オプション) のマグネットを携帯電話、磁気カード、乗車券、磁気テープ等の磁気記憶媒体に近づけないで下さい。記憶内容が破壊される恐れがあります。
②ワイヤレスリモコン (オプション) カバーのマグネットを携帯電話、精密機器、スピーカー、CDプレーヤー、時計、ブラウン管等に近づけないで下さい。正常な動作が妨げられたり、故障したりする恐れがあります。
③マグネット同士、または他の物に吸着して強い衝撃がマグネットに加わった場合、マグネット本体、表面処理が欠ける、もしくは剥がれる場合があります。

- 次のような場所でのワイヤレスリモコン (オプション) の使用は避けて下さい。
故障の原因となります。

- ①油のかかるところ
- ②温度が-20℃以下、+65℃以上となるところ
(温度範囲内であっても急な温度変化を与えないで下さい)
- ③高圧線や架線の近く (操作距離が短くなります)

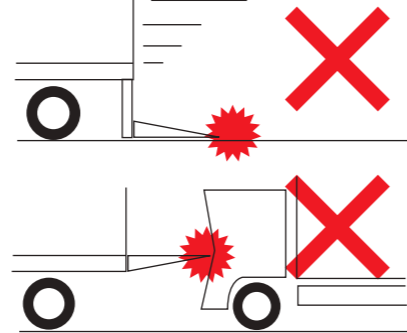
- ワイヤレスリモコン (オプション) は精密機器ですので、落としたり、激しい衝撃・振動を与えたりしないで下さい。故障の原因となります。

1.必読! 厳守事項

●走行時の注意事項

⚠ 警告

- リフトテーブルを格納していない状態では、車両を走行させないで下さい。
リフトテーブルを格納せずに車両を走行させると、リフトテーブルの破損や後続車両の衝突によって、思わぬ事故につながる恐れがあります。



- リフトテーブルを引き出したまま、車両を放置しないで下さい思わぬ事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

- リフト装置に牽引ロープをかけて車両等の牽引を行うと、リフト装置の変形等を招き作動不良の原因となりますので、絶対に行わないで下さい。
- 冠水路や深い水たまりは走行しないで下さい。リフトの故障につながる恐れがあります。
- 走行時は必ず引き出し式乗降ステップを格納して下さい。道路の段差等に接触してステップが損傷するとリフトの動作ができなくなる恐れがあります。

1.必読! 厳守事項

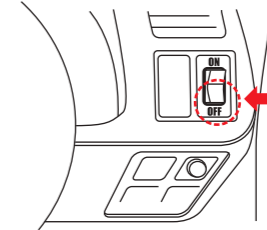
●点検整備時の注意事項

⚠ 警告

- リフトの分解・改造は、行わないで下さい。故障の原因になったり、思わぬ事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

- リフトの点検は、メインスイッチを「OFF」にしてから行って下さい。リフトが誤作動し、思わぬ事故につながる恐れがあります。



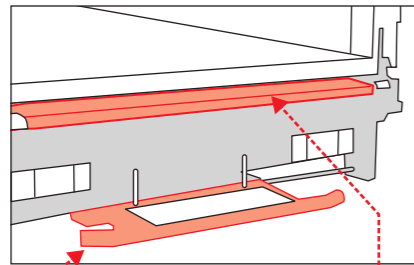
- リフトの機構部保守のため1ヶ月に1回以上、リフトを動かして下さい。リフトを長期間使用せずに放置すると、故障の原因になります。
- 高圧洗車や蒸気洗車は行わないで下さい。故障の原因となります。
- ワイヤレスリモコン (オプション) は防滴構造ですが、水の中に浸したり丸洗いしたりしないで下さい。故障の原因となります。

2.概要説明

●引き出しリフトの特徴

- 引き出しリフトはボデー床下に格納したリフトテーブルを、使用する時に手で引き出すタイプのリフトです。
- 垂直リフトですが、接地した際にリフトテーブル先端がチルトする機構があります。
- リフトテーブル格納時は、リフト操作無しで扉の開閉が行えます。また、引き出し式乗降ステップにより、荷室内への乗り降りが楽に行えます。

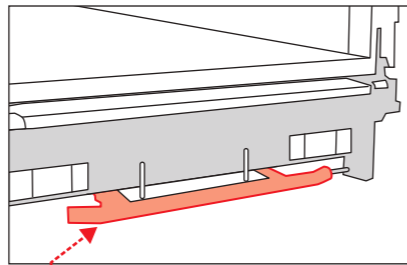
1.リフト格納状態



リフトテーブル (格納状態)

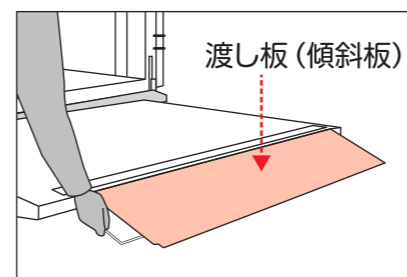
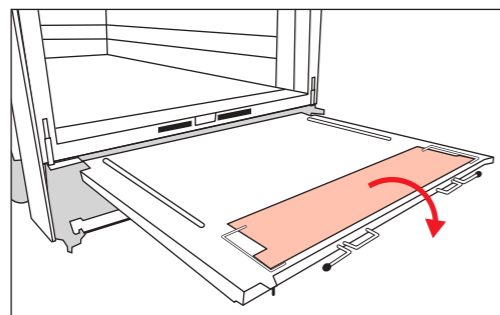
引き出し式乗降ステップ

2.引き出し式乗降ステップ格納



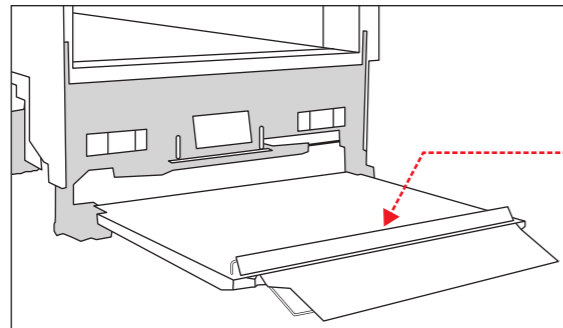
引き出し式乗降ステップ (格納状態)

3.リフトテーブル引き出し



渡し板 (傾斜板)

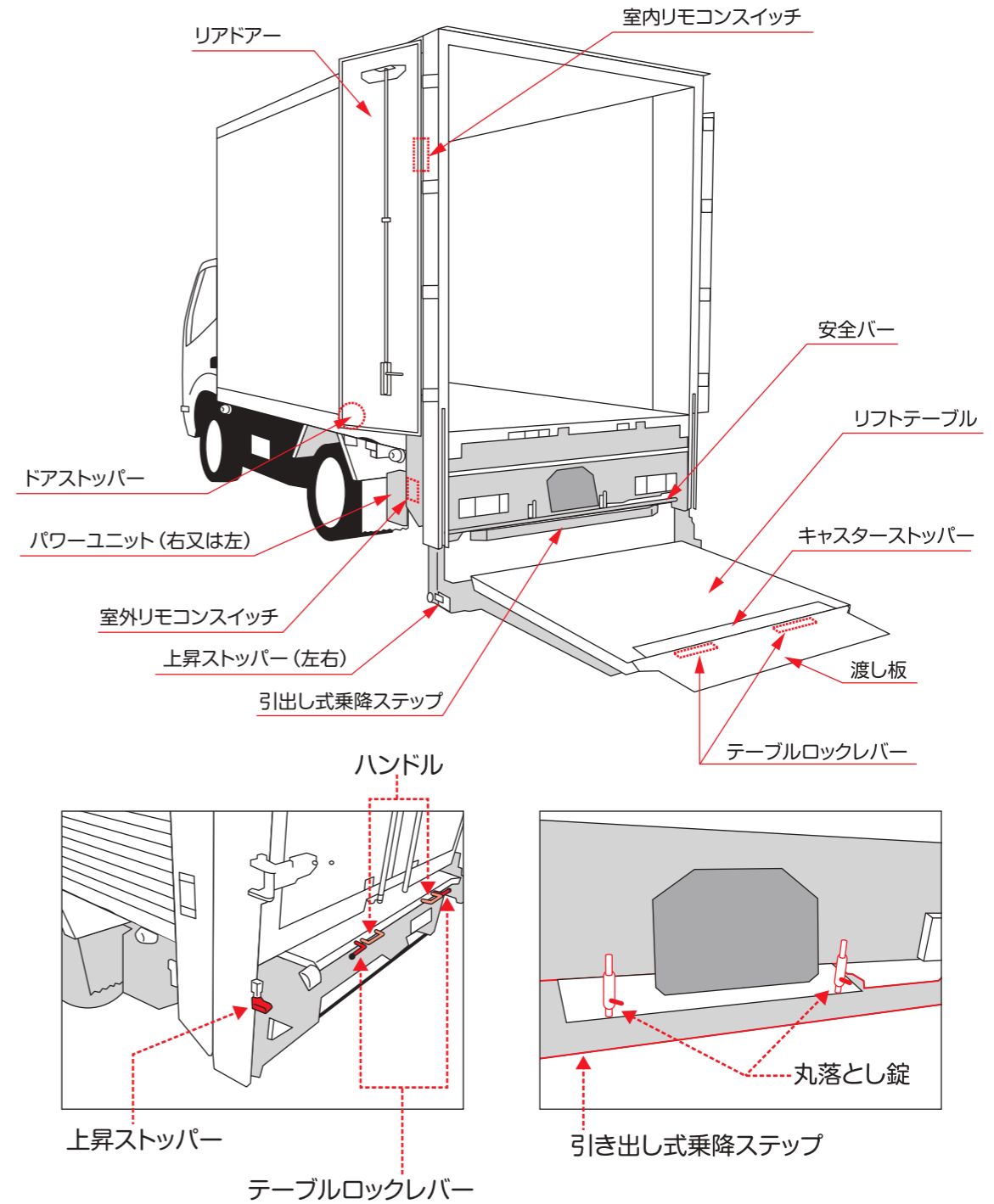
4.リフトテーブル接地



リフトテーブル先端チルト

2.概要説明

●各部の名称



上図は標準仕様を示します。
特殊仕様の場合は図と異なる事があります。

3.操作説明

●作業準備



リフトを操作する前に、次のことを確認して下さい。

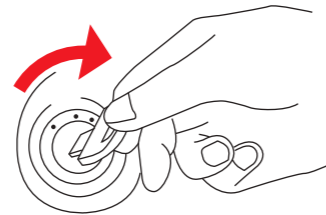
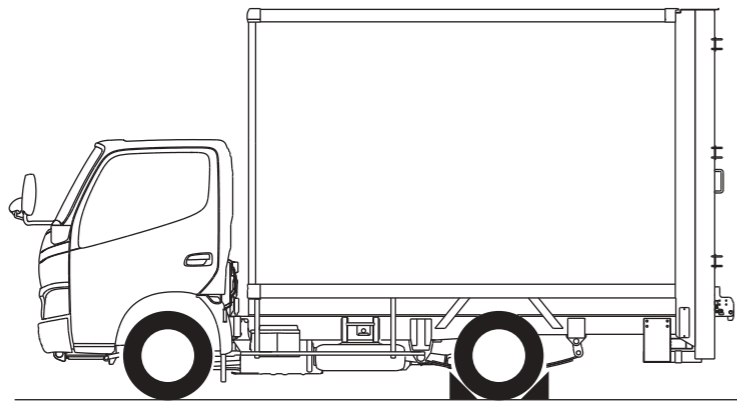
- リフトの操作は、傾斜地や不整地では行わないこと
 - リフトテーブルを降ろす範囲内に人がいないこと
 - リフトテーブルを降ろす範囲内に障害物がないこと
- 積荷の転倒・落下によって、人が重大な傷害を受ける恐れがあります。

1. 車両のパーキングブレーキが確実に効いていることを確認して下さい。



2. 車両のシフトレバーを「ニュートラル」または「パーキング」の位置にして下さい。

3. 車両のタイヤに「車輪止め」をセットして下さい。



*バッテリーを保護するために、エンジンをかけた状態でのご使用をおすすめします。
但し、危険物を荷役する場合は、引火防止の為、必ずエンジンを止めて下さい。

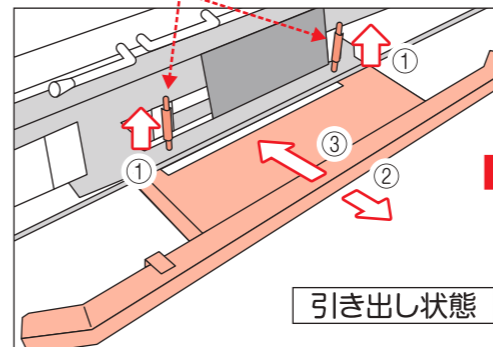
3.操作説明

●引き出し式乗降ステップの使用法

A. 引き出し式乗降ステップの格納

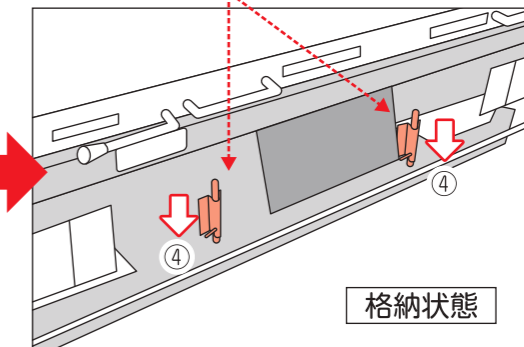
- ① 引き出し式乗降ステップの左右の丸落とし錠を引き上げます。
- ② ステップを一旦手前一杯まで引きます。
- ③ ストップに当たったらステップを一杯まで押し込みます。
- ④ 丸落とし錠を下げてロックします。

丸落とし錠「引き上げる」



引き出し状態

丸落とし錠「下げてロックする」

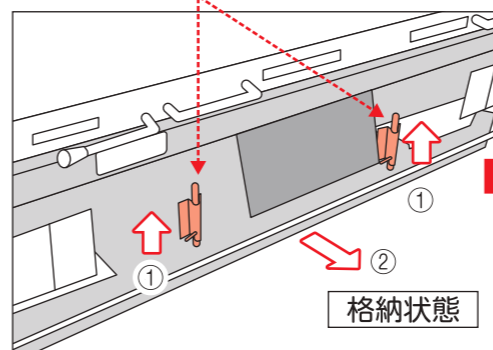


格納状態

B. 引き出し式乗降ステップの引き出し

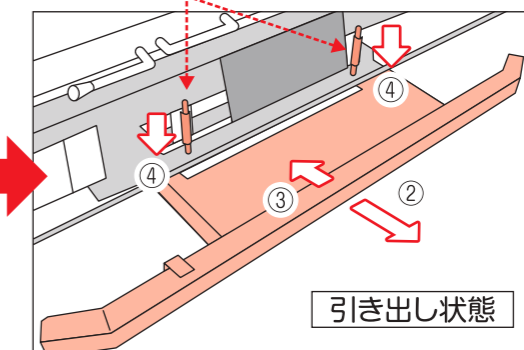
- ① 引き出し式乗降ステップの左右の丸落とし錠を引き上げます。
- ② ステップを一旦手前一杯まで引きます。
- ③ ストップに当たったらステップをもう一度ストップに当たるまで押し込みます。
- ④ 丸落とし錠を下げてロックします。

丸落とし錠「引き上げる」



格納状態

丸落とし錠「下げてロックする」



引き出し状態



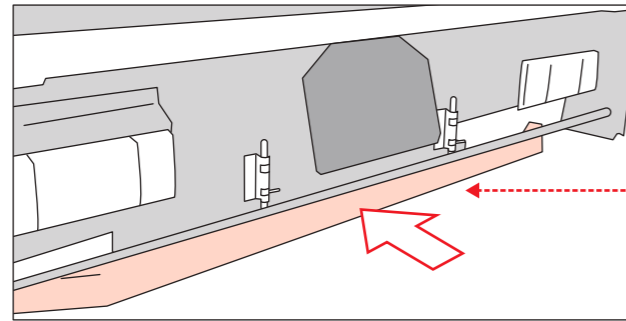
- リフトを使用する際は、必ず引き出し式乗降ステップが完全に格納していることを確認して下さい。ステップが完全に格納していないとリフト及びステップを損傷する恐れがあります。

3.操作説明

●リフトテーブルを引き出す

1. 引き出し式乗降ステップを格納します。

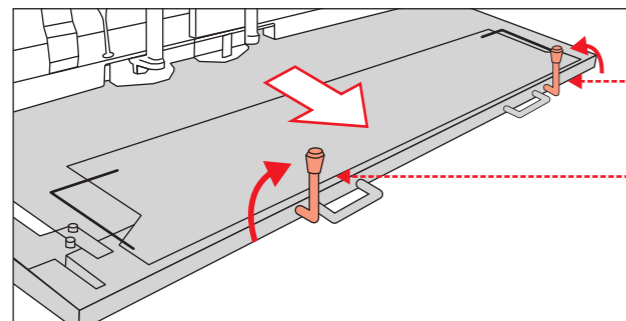
「引き出し式乗降ステップの使用方法」によりステップを完全に格納します。



引き出し式乗降ステップ
「格納する」

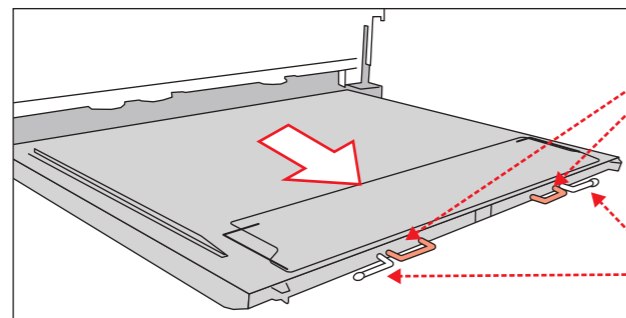
2. リフトテーブル後端部の左右のテーブルロックレバーを垂直に立て、そのままリフトテーブルを少し引き出します。

(リフトテーブルの格納ロックが解除状態となります)



テーブルロックレバー
「垂直に立てて少し引き出す」

3. 手をリフトテーブル後端のハンドルに持ち替えて、一杯までテーブルを引き出します。左右のテーブルロックレバーが水平に倒れてリフトテーブルが引出し状態でロックされます。

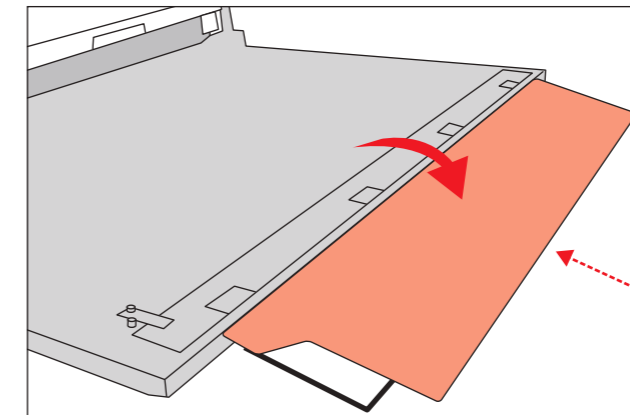


ハンドルを持って
「持って一杯まで引き出す」

テーブルロックレバー
「水平に戻っていることを確認」

3.操作説明

4. 渡し板を展開します。



渡し板

⚠ 警告

リフトテーブルを引き出した際に、テーブルロックレバーが水平に戻らない状態（ロックが不十分）のままリフトを使用すると、リフト使用中にテーブルが引っ込み、思わぬ事故が発生する恐れがあります。

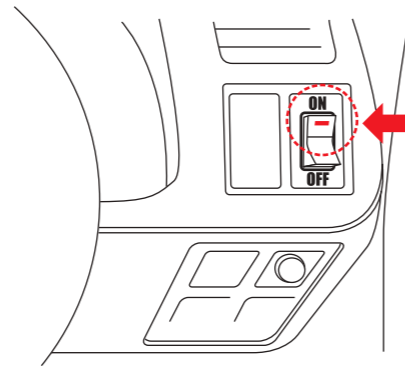
⚠ 注意

リフトテーブルを引き出す時に操作力が重い場合は、リフトが自然降下している可能性がありますので、操作を一旦中断しリフトテーブルを格納状態に戻した上で、室外又は室内のリモコンスイッチの「上」スイッチを押してリフトを上昇させた後に、リフトテーブルを引き出す操作を行って下さい。

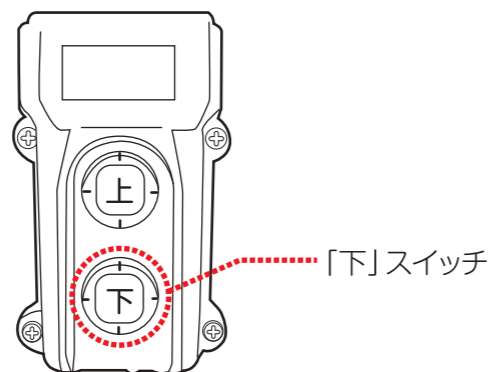
3.操作説明

●リフトテーブルを下降させる

1. リヤ扉を左右共開けて、ドアストッパで固定します。
※必ず扉を270°開いて固定した状態にて操作して下さい。
2. 「リフトテーブルを引き出す」によりリフトテーブルを引出します。
※引き出し式乗降ステップを必ず格納して下さい。
3. メインスイッチを「ON」にして下さい。



4. 室外のリモコンスイッチ又は、室内のリモコンスイッチの「下」スイッチを押すとリフトが下降します。



5. リフトテーブルが地面に接地するとテーブル先端がチルトします。

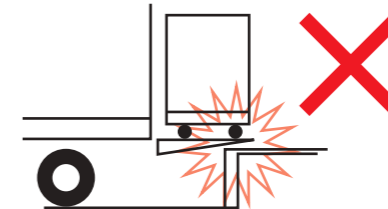
⚠ 警告

- リフトを操作する時は、車両の周辺に人がいないこと、障害物がないことを確認して下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。
- リフトテーブルのテーブルロックレバーが水平に戻らない状態（ロックが不十分）のままリフトを使用すると、リフト使用中にテーブルが引っ込み、思わぬ事故が発生する恐れがあります。

3.操作説明

⚠ 注意

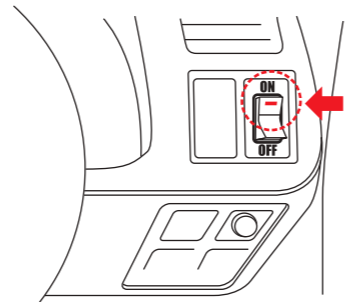
- 扉が観音扉の場合は、必ず270°開止めストッパで扉を固定して操作して下さい。扉の開きが足りないとリフトテーブルやリヤ扉を損傷する恐れがあります。
- リフトを使用する際は、必ず引き出し式乗降ステップが完全に格納していることを確認して下さい。ステップが完全に格納していないとリフト及びステップを損傷する恐れがあります。
- 荷物を載せた状態で、下げながらリフトテーブルをターミナルフロアに掛ける時は、ターミナルフロア直前で停止させ、ゆっくりとリフトテーブルを掛けて下さい。勢いよくリフトテーブルをターミナルに掛けるとリフトテーブルの破損、故障の原因となります。



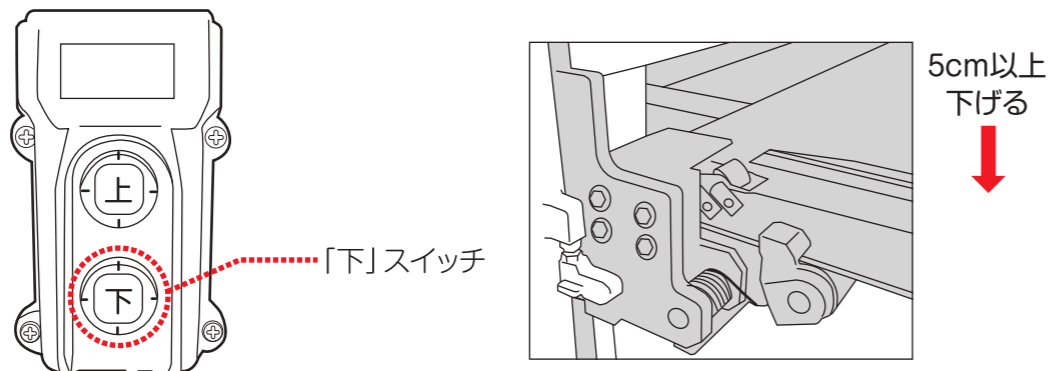
3.操作説明

●リフトテーブルを上昇させる

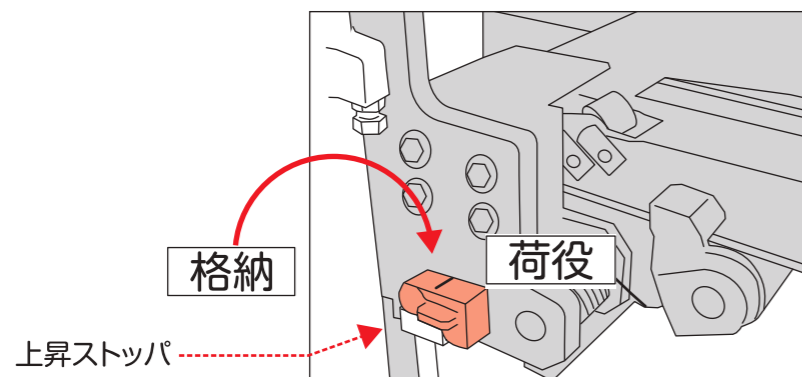
1. リヤ扉を左右共開けて、ドアストップで固定します。
※必ず扉を270°開いて固定した状態にて操作して下さい。
2. 「リフトテーブルを引き出す」によりリフトテーブルを引き出します。
※引き出し式乗降ステップを必ず格納して下さい。
3. メインスイッチを「ON」にして下さい。



4. 室外のリモコンスイッチ又は、室内のリモコンスイッチの「下」スイッチを押してリフトテーブルを引き出した位置から一旦5cm以上下げます。

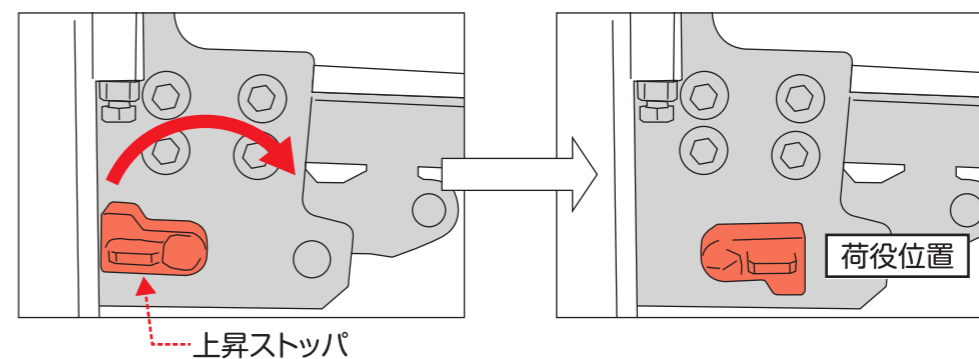


5. 上昇ストップのレバーを後方に180°回転させ「荷役(解除)」位置にします。
※上昇ストップが「荷役(解除)」位置にないとリフトテーブルが床面まで上昇しません。



3.操作説明

上昇ストップ「荷役(解除)」位置



*4~5の操作は最初の1回だけです。その後はリフトテーブルを格納するまで同一操作を行う必要はありません。

6. 室外のリモコンスイッチ又は、室内のリモコンスイッチの「上」スイッチを押します。



⚠ 警告

- リフトを操作する時は、車両の周辺に人がいないこと、障害物がないことを確認して下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。
- リフトテーブルのテーブルロックレバーが水平に戻らない状態(ロックが不十分)のままリフトを使用すると、リフト使用中にテーブルが引っ込み、思わぬ事故が発生する恐れがあります。

⚠ 注意

- 扉が観音扉の場合は、必ず270°開止めストップで扉を固定して下さい。扉の開きが足りないとリフトテーブルやリヤ扉を損傷する原因となります。
- リフトを使用する際は、必ず引き出し式乗降ステップが完全に格納していることを確認して下さい。ステップが完全に格納していないとリフト及びステップを損傷する恐れがあります。

3.操作説明

⚠ 注意

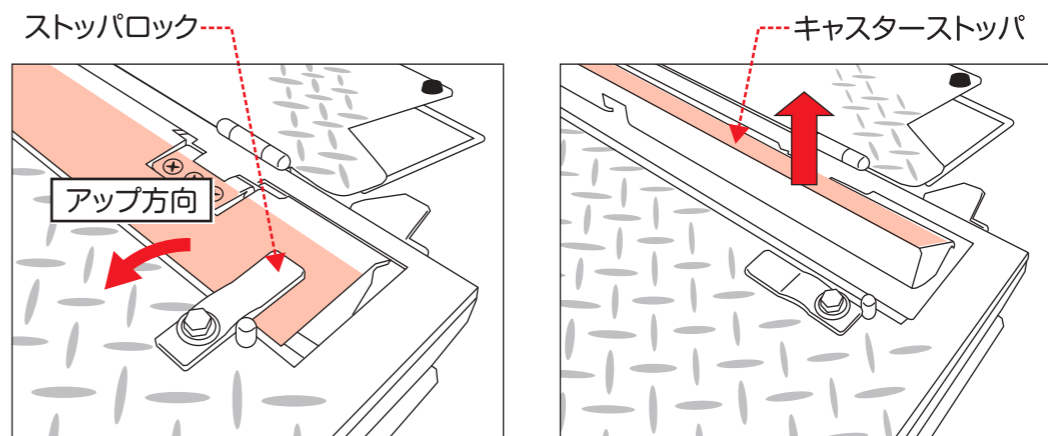
- 「上」スイッチは、20秒以上押し続けしないで下さい。破損、故障の原因となります。
- 「上」スイッチは、上昇端に到達後2秒以内に離して下さい。
押し続けると、パワーユニット内のモーター温度が上昇し、破損、故障の原因となります。
- 短時間で繰り返し昇降操作を行うと、モーター温度が上昇し、破損、故障の原因となります。

3.操作説明

●キャスターストップ使用方法

「台車を降ろす時」

1. ストッパロックを足で「アップ」方向に動かして下さい。キャスターストップが跳ね上がります。



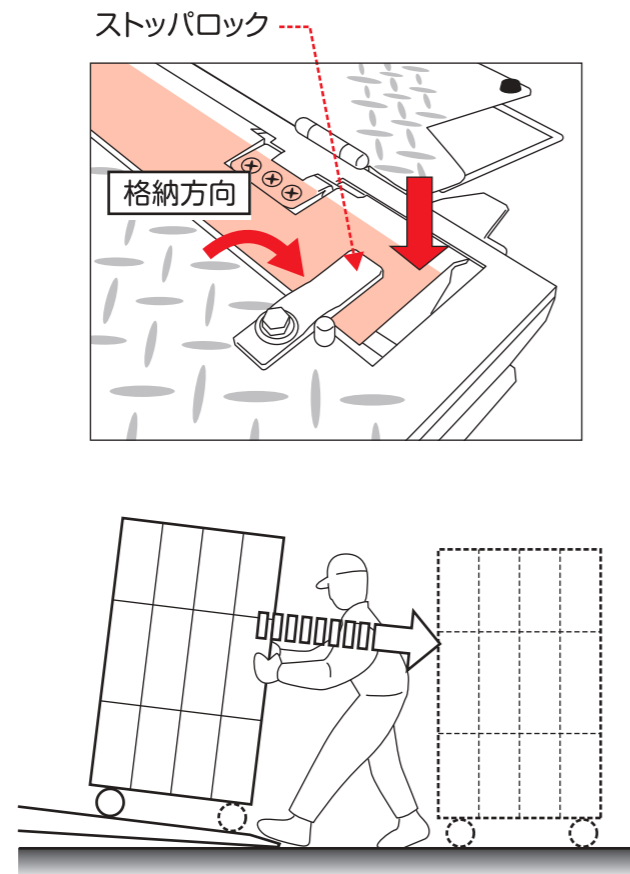
2. 台車を車両の荷台からリフトテーブルに移動させて下さい。
3. リフトテーブルを下降させて下さい。

⚠ 警告

リフトテーブルを下げる時は、リフトテーブル着地後車両のばねが戻るまで「下げ」操作を続けて下さい。(リフトテーブル着地後2~3秒が目安)
車両のばねが戻らないまま台車を降ろすと、リフトテーブルが浮き上がり、台車が転倒する恐れがあります。

3.操作説明

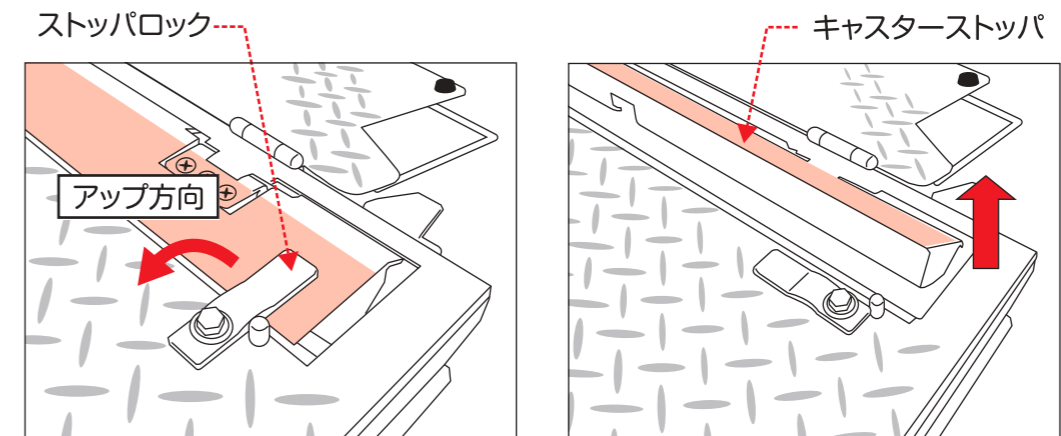
4. 台車をリフトテーブル根本側に押し支えた状態で、キャストストップを足で踏みながらストップロックを足で「格納」方向に動かして下さい。キャストストップが格納した状態で固定され、リフトテーブルから台車を降ろすことができます。



3.操作説明

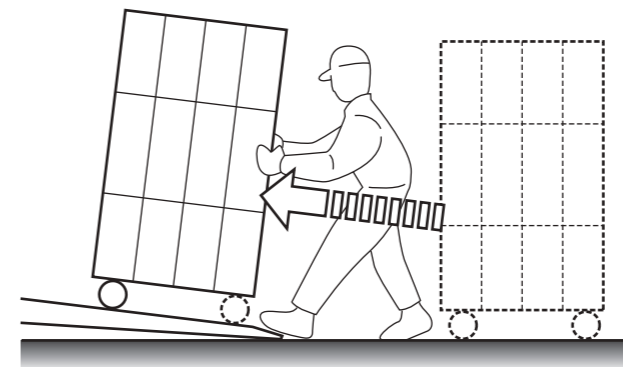
「台車を積み込む時」

1. ストップロックを「アップ」方向に足で動かして下さい。キャストストップが跳ね上がります。



*キャストストップを足で踏んでも、キャストストップは「格納」位置でロックされません。

2. 台車をリフトテーブルに積み込んで下さい。

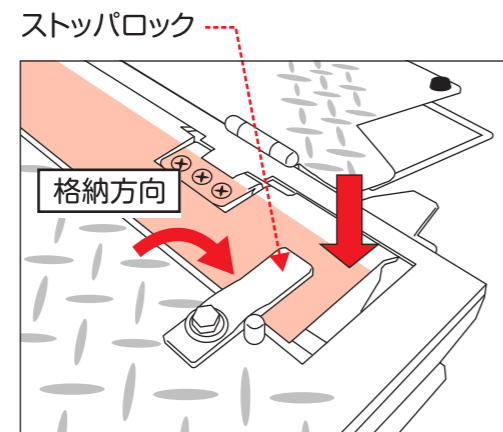


3. リフトテーブルを上昇させて下さい。

4. 台車を荷台に積み込んでから、リフトテーブルを下降させて下さい。

3.操作説明

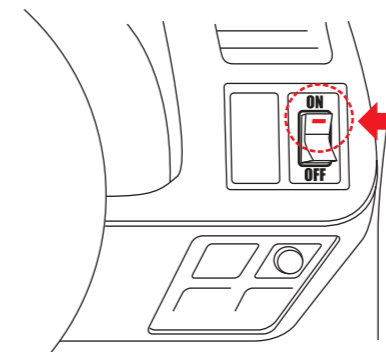
5. キャスターストップを足で踏みながらストップロックを足で「格納」方向に動かしてキャスターストップを格納状態で固定して下さい。



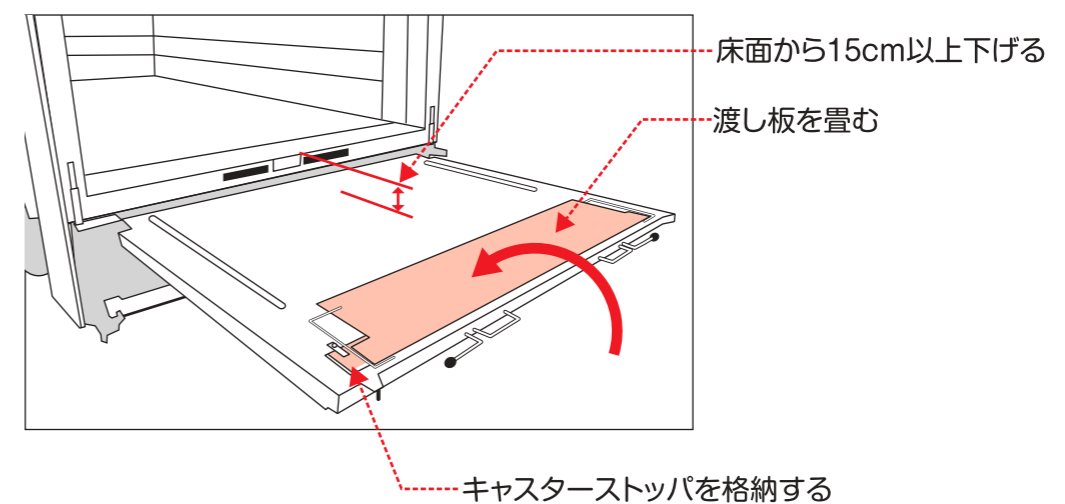
3.操作説明

●リフトテーブルを格納する

1. リヤ扉を左右共開けて、ドアストップで固定します。
※必ず扉を270°開いて固定した状態にて操作して下さい。
2. 引き出し式乗降ステップを必ず格納して下さい。
3. リフトメインスイッチを「ON」にして下さい。

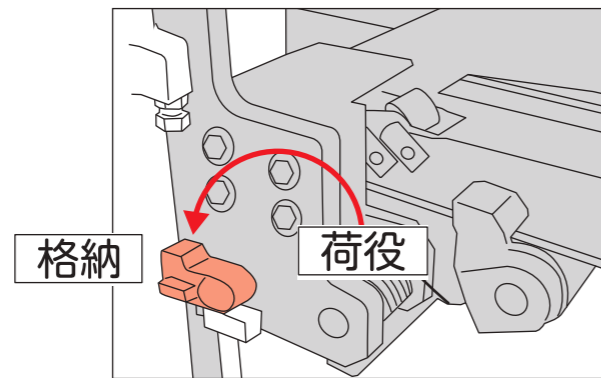


4. 室外のリモコンスイッチ又は室内のリモコンスイッチの「下」スイッチを押してリフトテーブルを荷室床面から15cm以上上げた位置にします。
5. 「キャスターストップ使用方法」によりキャスターストップを格納し、渡し板を畳みます。

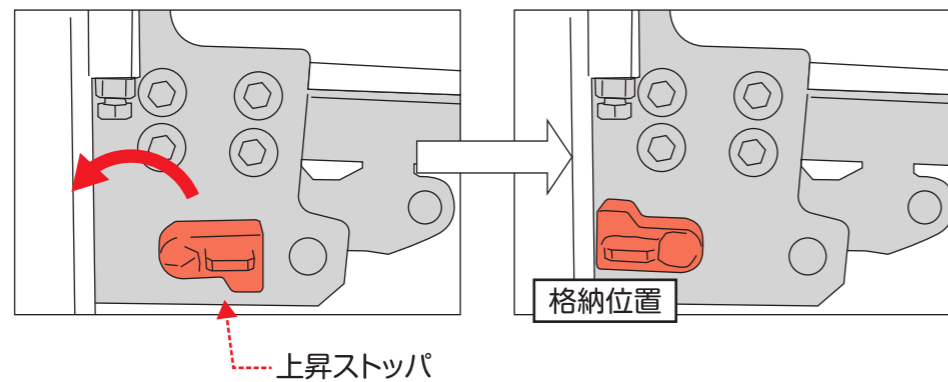


3.操作説明

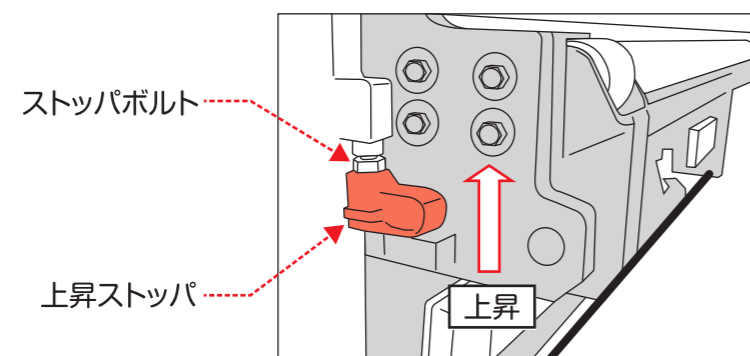
6. 上昇ストップのレバーを前方に180°回転させ「格納」位置にします。



上昇ストップ「格納」位置

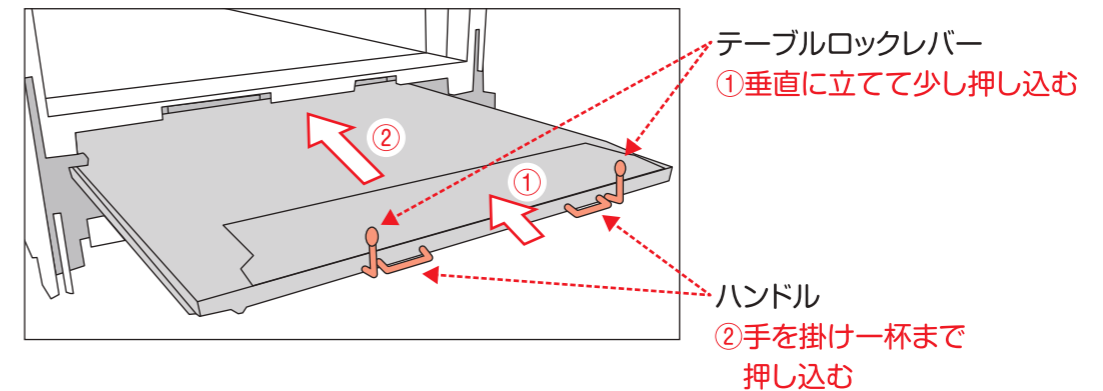


7. 上昇ストップがストップボルトに当たるまでリフトテーブルを上昇させます。

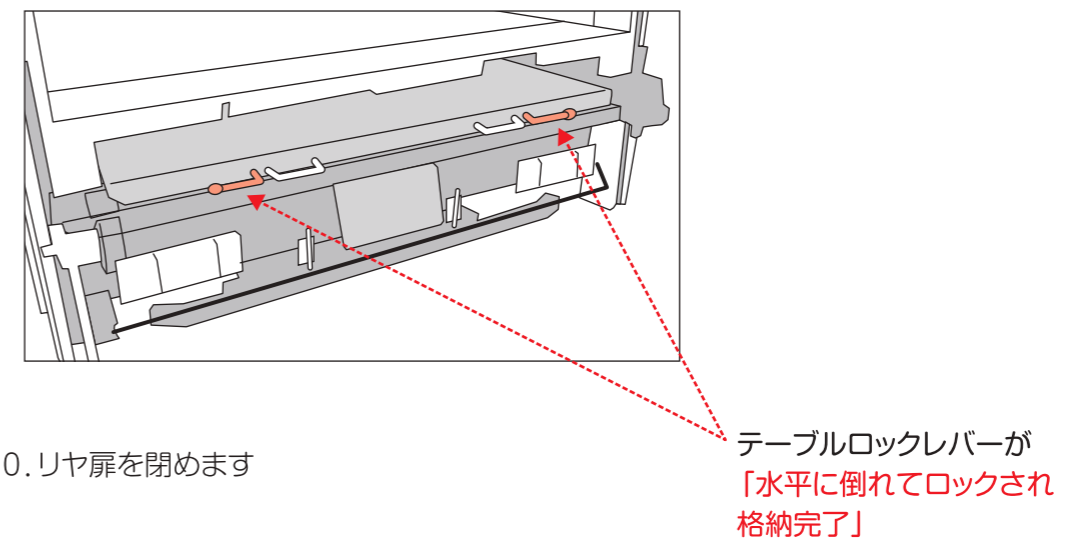


3.操作説明

8. テーブルロックレバーを垂直に立ててリフトテーブルを少し押し込んだ後、手をハンドルに持ち替えてリフトテーブルを一杯まで押し込みます。



9. テーブルロックレバーが水平に倒れて、リフトテーブルが格納状態でロックされ格納が完了します。



10. リヤ扉を閉めます

3.操作説明

⚠ 警告

- リフトを操作する時は、車両の周辺に人がいないこと、障害物がないことを確認して下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。
- 格納したリフトテーブルのテーブルロックレバーが水平に戻らないまま（ロックが不十分）だと、走行中にリフトテーブルが飛び出て、思わぬ事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

- 扉が観音扉の場合は、必ず270°開止めストッパで扉を固定して操作して下さい。扉の開きが足りないとリフトテーブルやリヤ扉を損傷する原因となります。
- リフトを使用する際は、必ず引き出し式乗降ステップが完全に格納していることを確認して下さい。ステップが完全に格納していないとリフト及びステップを損傷する恐れがあります。
- 「上」スイッチは、20秒以上押し続けしないで下さい。破損、故障の原因となります。
- 「上」スイッチは、上昇端に到達後2秒以内に離して下さい。押し続けると、パワーユニット内のモーター温度が上昇し、破損、故障の原因となります。
- 短時間で繰り返し昇降操作を行うと、モーター温度が上昇し、破損、故障の原因となります。

3.操作説明

●車両の走行について

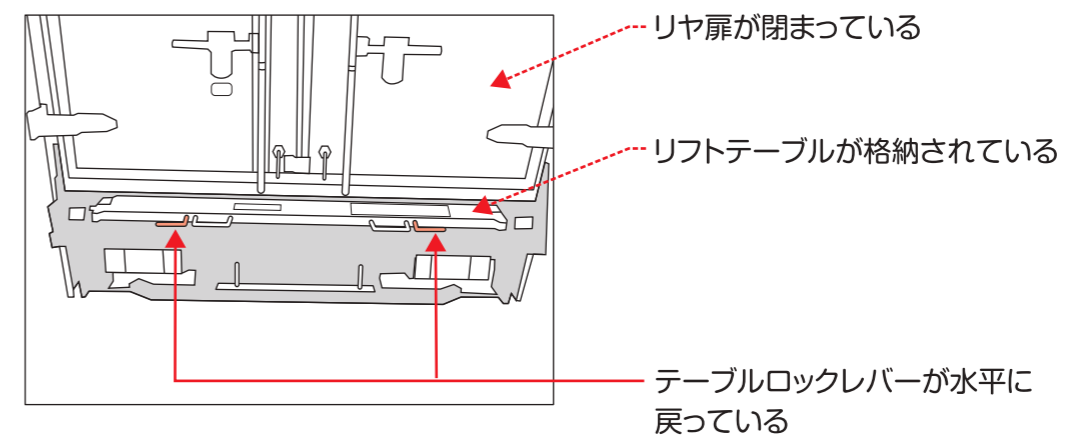
⚠ 警告

- リフトテーブルを格納していない状態では、車両を走行させないで下さい。リフトテーブルを格納せずに車両を走行させると、リフトテーブルの破損や後続車両の衝突によって、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- 台車をリフトテーブルに積み込んでいる状態では、車両を走行させないで下さい。台車の転倒や落下によって、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- 格納したリフトテーブルのテーブルロックレバーが水平に戻らないまま（ロックが不十分）だと、走行中にリフトテーブルが飛び出て、思わぬ事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

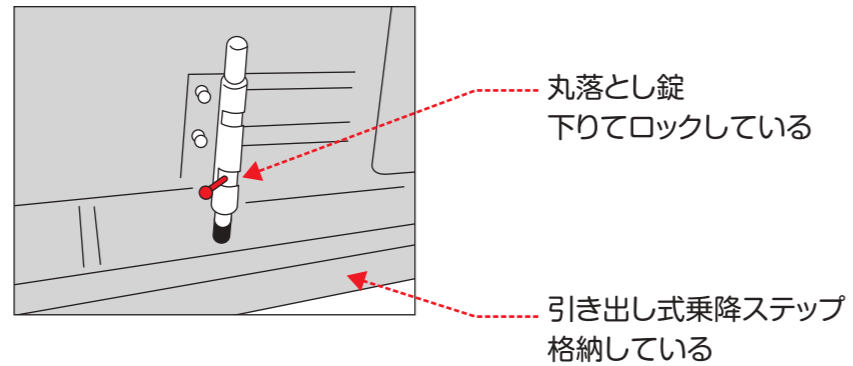
- 走行時は必ず引き出し式乗降ステップを格納して下さい。道路の段差等に接触してステップが損傷するとリフトの動作ができなくなる恐れがあります。
- 悪路や段差を走行するときは、徐行して下さい。リフト・門構ポスト・引き出し式乗降ステップが地面に接触し、破損、故障の原因となります。
- リフト装置に牽引ロープをかけて車両等の牽引を行うと、リフト装置の変形等を招き作動不良の原因となりますので、絶対に行わないで下さい。
- 冠水路や深い水たまりは走行しないで下さい。リフトの故障につながる恐れがあります。

1. リフトテーブルが完全に格納され、テーブルロックレバーが水平に戻っていることを確認して下さい。荷台の扉が完全に閉まっていることを確認して下さい。

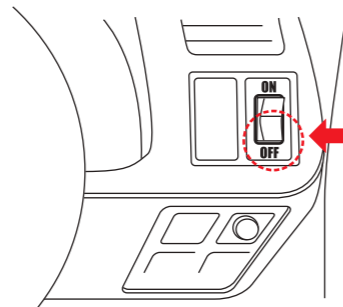


3.操作説明

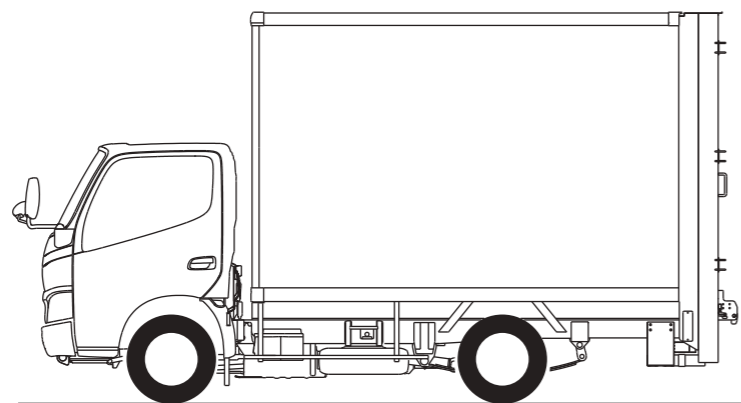
2. 引き出し式乗降ステップが格納され、丸落とし錠が下りてロックしていることを確認して下さい。



3. メインスイッチが「OFF」になっていることを確認して下さい。



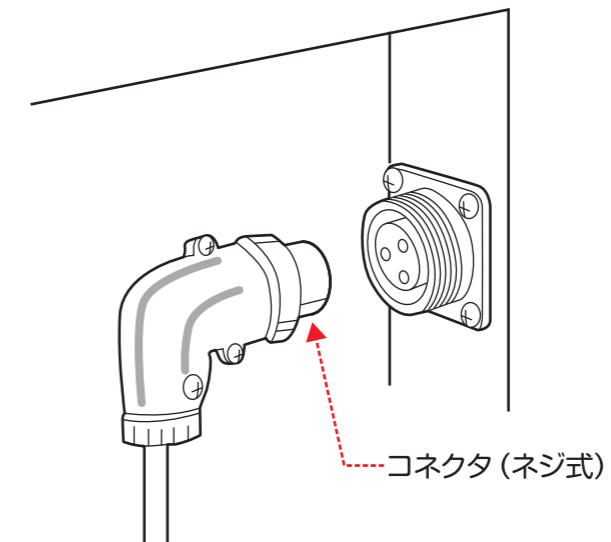
4. 車輪止めを外して所定の場所に戻して下さい。



3.操作説明

●室内リモコンスイッチについて(コネクタ式はオプション)

1. 室内リモコンスイッチの取り付け
リモコンスイッチのコネクタ(ネジ式)を取り付けて下さい。
2. 室内リモコンスイッチの取り外し
室内リモコンスイッチのコネクタ(ネジ式)を取り外して下さい。



⚠ 注意

- 車両の扉や荷物等でリモコンスイッチの配線をはさまないように注意して下さい。
配線が断線やショートする恐れがあります。

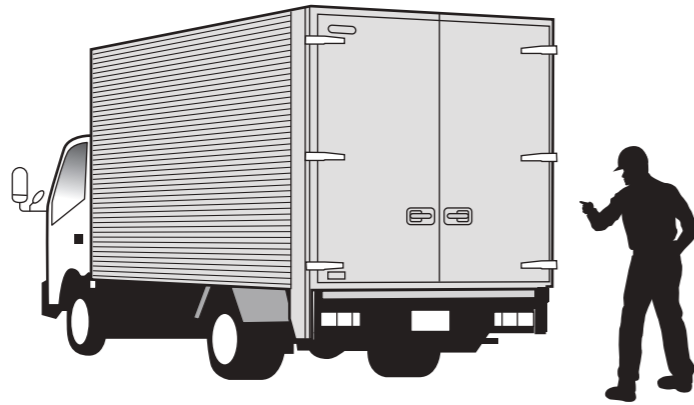
4.点検・整備

リフトの性能を十分に発揮させ、また安全で快適にご使用頂くためには、日頃からの点検とお手入れが重要になります。

日頃からの点検とお手入れが、リフトの寿命を長くすることにつながります。

●日常(運行前)点検

- 日常(運行前)点検は、道路運送車両法(第47条の2)により運転者に義務付けられています。
- 点検項目は「日常(運行前)及び定期点検表」に記載しています。
- ただし、リフト以外の項目については、車両および装置メーカー発行の「日常(運行前)及び定期点検表」をご覧ください。



点検・整備を行う場合は、危険を避けるため下記事項を守って下さい。

- 車両は水平で平坦な場所に置いて下さい。
- パーキングブレーキを掛け、車両のタイヤには車輪止めをして下さい。
- 作業は、荷物等でリフトに負荷をかけないで行って下さい。

●定期点検

- 定期点検は、道路運送車両法(第48条)により運転者に義務付けられています。
- 点検項目は、「日常(運行前)及び定期点検表」に記載しています。

4.点検・整備

●日常(運行前)及び定期点検表

点検箇所	点検項目	点検方法	日常点検	定期点検		定期交換
				1ヶ月毎	6ヶ月毎	
ワイヤ	素線切れ、毛羽立ち 腐食・錆 形くずれ 摩耗、直径の減少 端末金具の異常	●門構ポスト内部の目視 (次頁「ワイヤ点検」参照)	○		○	2年毎
		●門構口ワ内部の目視 (次頁「ワイヤ点検」参照)			○	
シーブプッシュ	割れ、変形、摩耗	●リフトテーブルを昇降 ●目視			○	2年毎
リフトテーブル	変形、傾き	●リフトテーブルを昇降、開閉 ●目視	○		○	
リフトテーブル ロック	ロックレバーのガタ	●ロックレバーを操作 ●目視	○			
	ブラケットの変形		○			
	変形、錆、スプリング のへたり		○			
	ボルト類のゆるみ		○			
リフトテーブルの 軸受部	軸受(プッシュ)の 変形、摩耗	●リフトテーブルを引き出し格納 ●目視			○	
キャスターストップ	キャスターストップ の機能	●アップ操作の動作確認 ●ロック操作の動作確認	○			
安全装置	バー、アームの変 形作動	●目視	○			
	作動	●安全バーを上げた状態でリフト テーブルが 上昇しないことを確認 下降することを確認	○			
油圧部品	パワーユニット、シリ ンダの油漏れ、異音	●リフトテーブルを昇降 ●目視	○			
	作動油量、汚れ	●目視			○	1年毎
	油圧ホースの油も れ、変形、ひび割れ	●目視	○			2年毎
電気部品	メインスイッチ、リモ コンスイッチの機能 確認	●リフトテーブル昇降 ●目視	○			
	コードのねじれ、変 形、損傷、接続	●目視	○			
	コネクタの接続	●目視			○	
	バッテリーコードの損傷	●目視			○	
引き出し式乗降 ステップ	ステップの変形 作動、ロック、ガタ	●ステップの動作確認 ●ロック確認 ●目視	○		○	
ボルト・ナット類	ゆるみ、脱落	●リフトテーブルを引き出し格納 ●目視			○	

4.点検・整備

■日常の点検

点検項目	点検内容
使用前点検	使用する前には、必ず空荷で操作を行い、正常に機能するかどうかをお確かめ下さい。
洗車の際のご注意	洗車する際には、モーター、スイッチ、ソレノイドリレーなど電気関係部品に直接、水を掛けない様にご注意して下さい。 特に圧力のある水を吹き付けますと絶縁不良を起こしたり、故障の原因になることがあります。
滑動部分汚れについて	滑動部分の汚れの有無 特にシリンダーピストンロッド部に傷をつけたり泥等の汚れがついたままでの使用は、内部シート・パッキンなどを傷付け、油漏れの原因となりますのでご注意ください。
細部点検項目	<ul style="list-style-type: none"> ●各締め付け部品の緩み・破損・脱落 ●配線端子の汚れ・緩み・破損・脱落 ●リモコンスイッチの破損及び配線コードの被覆破れ ●油の漏れ、にじみの確認 ●油量の確認（テーブルを接地させた状態での確認） ●操作スイッチによる機能の確認 ●安全バー機能の確認（オプション） ●キャストーストッパー機能の確認（オプション）

⚠ 注意

- 点検作業を行う時はリフト装置及び電気回路等の万一の誤作動に対して十分に注意して下さい。
- リモコンスイッチの破損や配線コードの被覆の破れがあるとショートによる車両火災が発生する恐れがあります。

4.点検・整備

●ワイヤの点検と交換

1. リフト使用前には必ずリフトテーブルを下げた状態で、門構のポスト内及びロワ内のワイヤに損傷がないか確認して下さい。
- 1週間に1度ワイヤに給脂して下さい。
 - 6ヶ月毎にカバーを取り外し、内部のワイヤに摩耗や損傷が無いか確認し、異常がある場合は使用を中止して、すみやかにワイヤを交換して下さい。
 - ワイヤの交換基準は最長2年間を限度としています。リフトの昇降回数は、20回/日を目安としていますが、使用頻度が高い場合は、別表の「昇降回数とワイヤ交換時期」に従い交換して下さい。
 - ワイヤの交換時は、シーブ・ブッシュ・シーブ軸も合わせて交換して下さい。

(1) ワイヤの損傷

1) 素線切れ



2) 腐食



3) 摩耗・直径の減少

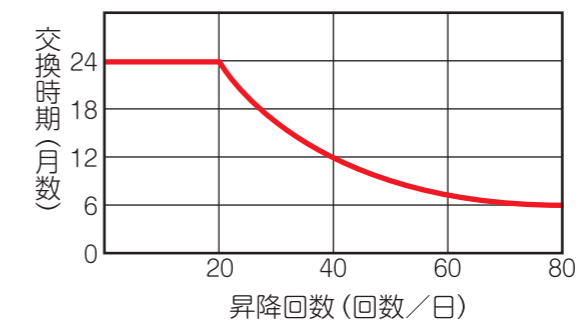


4) 形くずれ



(2) 昇降回数とワイヤの交換時期

●昇降回数とワイヤ交換時期



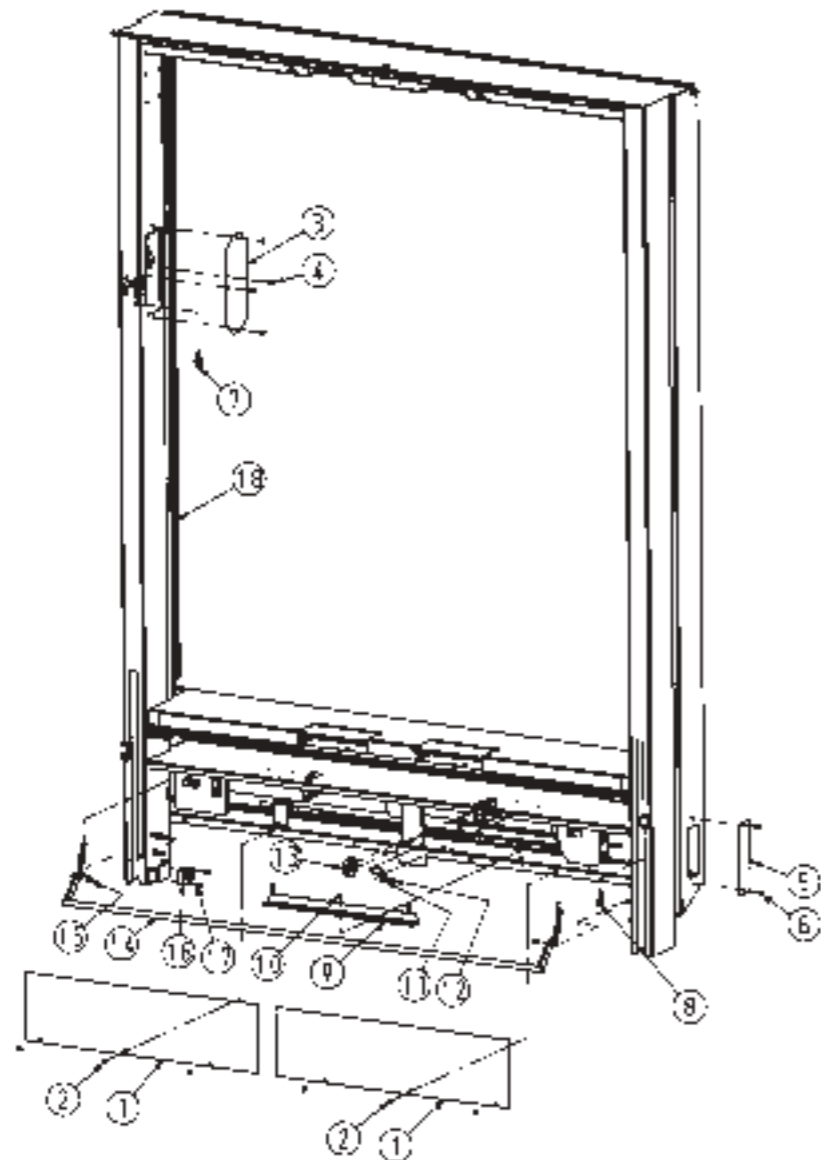
※上記グラフに基づき昇降回数からワイヤの交換時期を算出して下さい

4.点検・整備

2.ワイヤの点検箇所

A.ワイヤの点検関連・門構周り各部の名称

①③⑤⑬の点検蓋を外してワイヤの状態を確認して下さい。

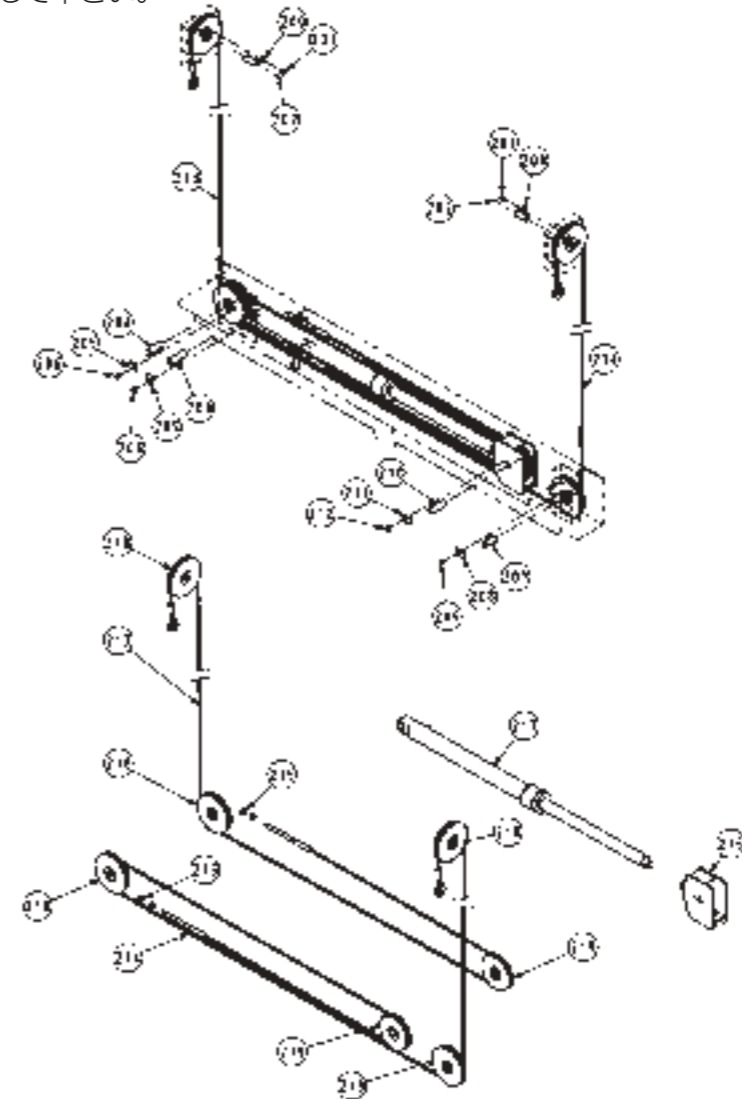


① シリンダー点検カバー	⑦ 上昇ストッパー	⑬ 床ローラー
② 六角ボルト、SW、PW	⑧ 格納位置ストッパー	⑭ 安全バー
③ ワイヤ点検カバー	⑨ ガイド	⑮ 六角ボルト、SW、PW
④ なべ小ネジ、SW	⑩ 六角ボルト、SW、PW	⑯ リミットスイッチ
⑤ シーブ点検カバー	⑪ 床ローラーピン	⑰ 六角ボルト
⑥ なべ小ネジ、SW	⑫ 六角ボルト、SW、PW	⑱ コーナー化粧カバー

4.点検・整備

B.ワイヤの点検関連・ワイヤ、シーブ関係各部の名称

⑳㉓、㉔㉕がワイヤです。テーブルを昇降させてワイヤ及びシーブに異常がないか点検して下さい。



㉓ 上シーブピン	㉑ 右シーブピン	㉔ ワイヤ・右用
㉒ 六角ボルト、SW、PW	㉒ ピン回り止め	㉕ 六角ナット
㉑ グリスニップル	㉑ 六角ボルト、SW、PW	㉖ シリンダーシーブBKT
㉑ シリンダーピン	㉑ シリンダーシーブピン	㉗ シリンダー
㉑ 左シーブピン	㉑ ピン回り止め	㉘ シーブ・大
㉑ ピン回り止め	㉑ 六角ボルト、SW、PW	㉙ シーブ・小
㉑ 六角ボルト、SW、PW	㉑ ワイヤ・左用	

4.点検・整備

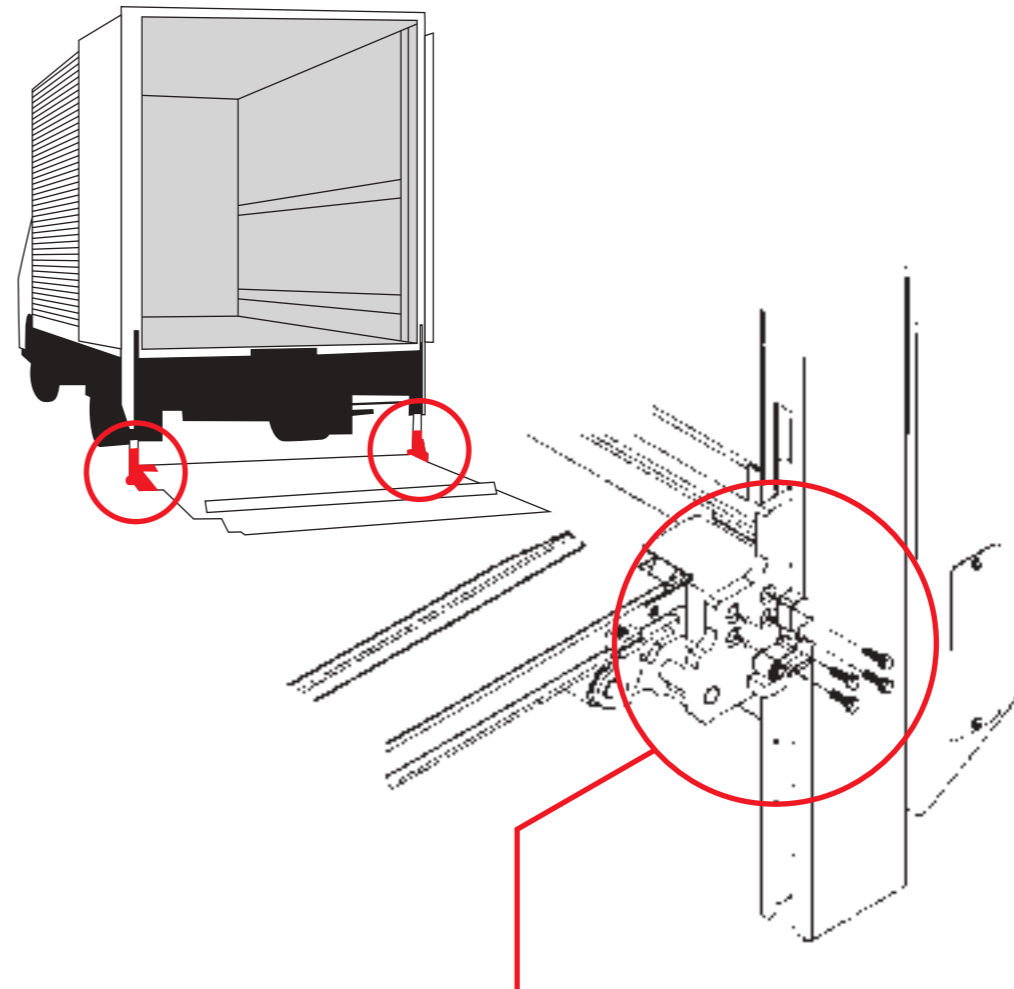


- リフトテーブルは、ワイヤで支えられています。ワイヤが切断するとリフトテーブルが落下して人が重大な傷害を受ける恐れがあります。

4.点検・整備

●リフトテーブルのスライドBKT取付ボルトの点検

- リフト使用前に必ずリフトテーブル付け根部のスライドBKT取付ボルト（左右各4本）に緩みや抜けが無いことを確認して下さい。
- ボルトの抜け落ちや破損があった場合は、リフトの使用を中止して修理を行って下さい。



- ※リフトテーブル付け根部のボルトに緩みがない事をご確認ください。ボルトは左右各4本あります。
- ※ボルトに抜け落ちや破損があった場合は、使用を中止し修理を行って下さい。



- リフトテーブルは、付け根部のスライドBKTで支えられています。スライドBKT取付ボルトに抜け落ちや破損があると、リフトテーブルが落下して人が重大な傷害を受ける恐れがあります。

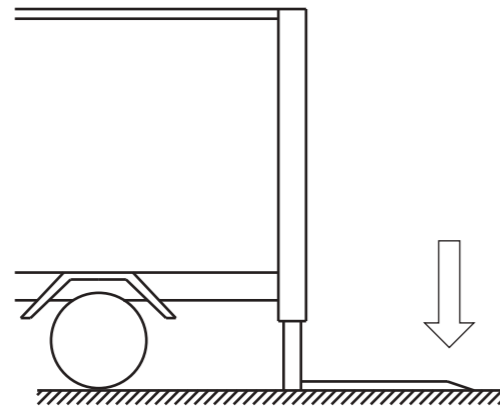
4.点検・整備

●給油・給脂

「給油（補充・交換）」

油量の不足・油の汚れはリフトの自然落下・オイル漏れ・油圧装置故障の原因となりますので油量の点検及び定期的な交換を行って下さい。

1. リフトテーブルを下降させ、着地させて下さい。

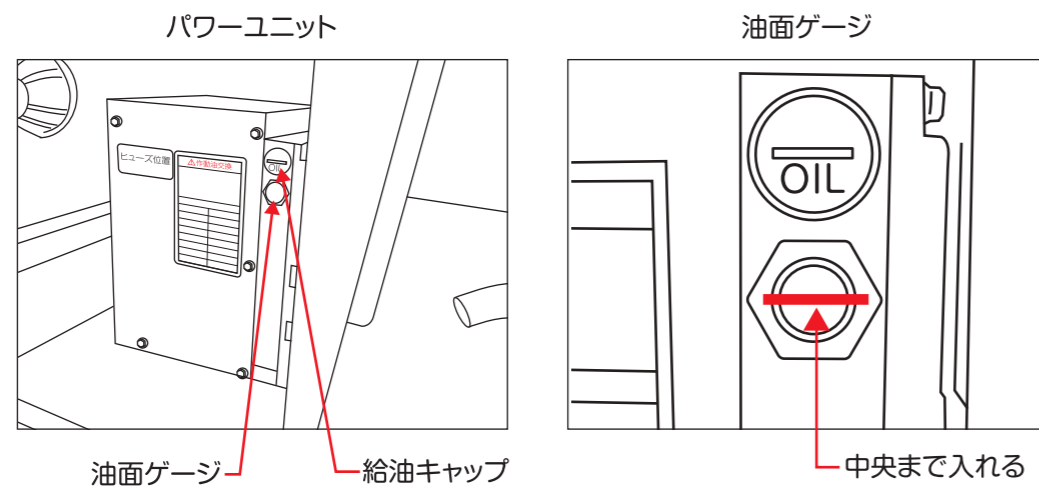


*オイルレベルの確認は、平坦な場所でリフトテーブルが着地するまで下降させてから行って下さい

2. パワーユニットの給油キャップを外して、油面ゲージの中央まで給油して下さい。

（作動油交換時に使用するドレンプラグはパワーユニット下面にあります）

3. 給油キャップを締めて下さい。



4.点検・整備

リフトの故障を未然に防ぎ、寿命を長くする為には、定期的な作動油の交換が必要です。交換時期については下表をご参照下さい。

●作動油の交換時期

時 期		種 類	粘 度
1回目	使用開始から 3ヶ月後	耐摩耗性作動油	ISO VG22相当
2回目以降	1年毎		

●注油の際には、150メッシュ以上のフィルターを通した清浄な作動油を使用して下さい。

●作動油の注入後は、リフトテーブルの上昇・下降を繰り返して回路内のエア抜きをして下さい。

●作動油は下表のもの（推奨）を使用して下さい。

コスモ石油	コスモハイドロ HV22
JX日鉱日石エネルギー	ハイランドワイド 22
出光興産	ダフニースーパーハイドロST VG22
昭和シェル石油	シェルテラスS2M 22

⚠ 注意

●リフトの使用頻度が多く、作動油の汚れがひどい場合や粘度が異常に変化した場合には、上表の期間内であっても早期に作動油を交換して下さい。

●冬期温度が0℃以下に下がることの多い地域で使用するときは、ISO VG15相当の作動油を使用して下さい。

4.点検・整備

「給脂(グリスアップ)」

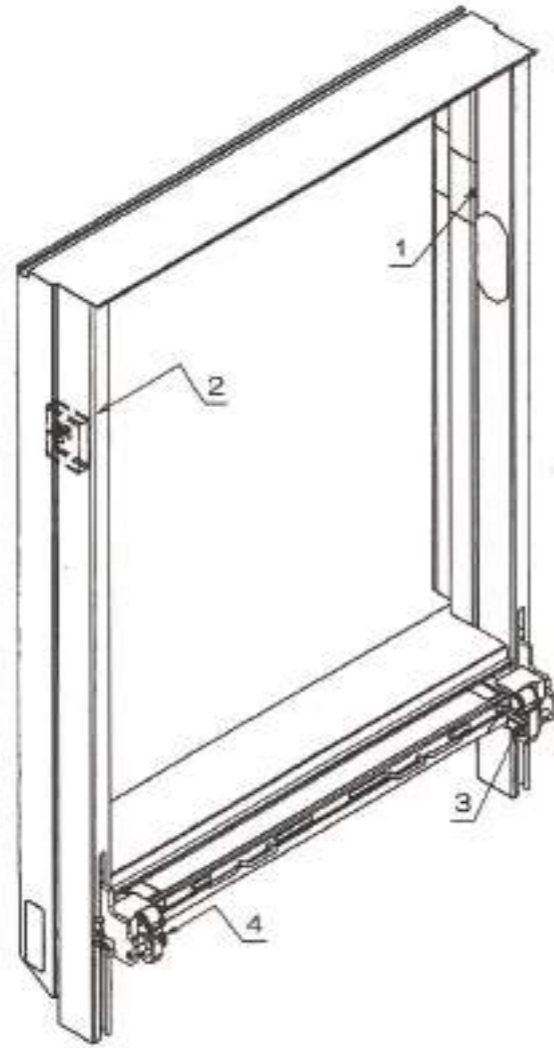
リフトの故障を未然に防ぎ、寿命を長くするためには、定期的な給脂が必要です。
給脂(グリスアップ)時期については、下表をご参照下さい。

時期	容量	種類
3ヶ月毎	適量	リチウムグリス1(もしくは2)

※カルシウムグリスは耐熱温度が60℃までですので使用しないで下さい

1. グリスニップル位置

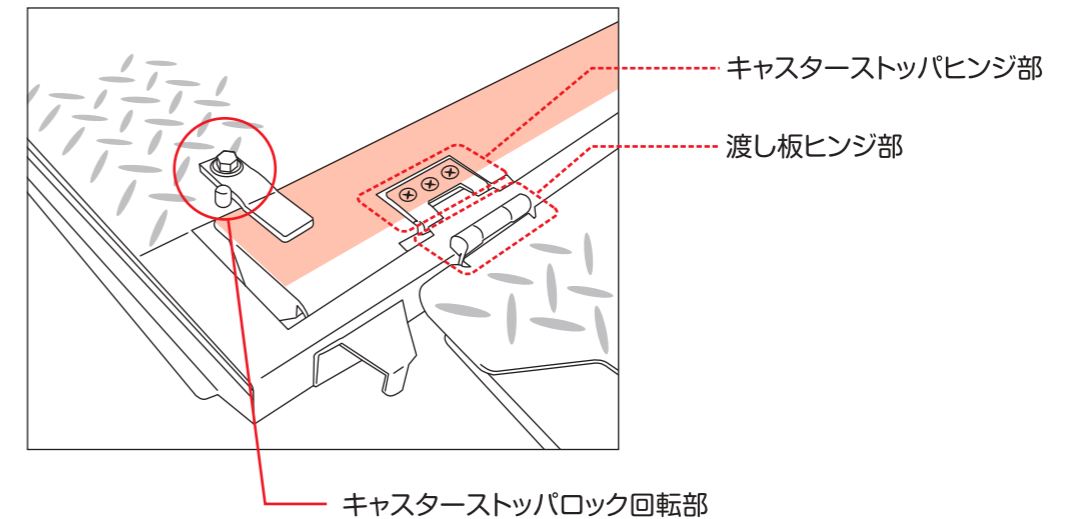
下図に示す4ヶ所にグリスニップルがあります。グリスガン等を使用して新しいグリースが出てくるまで十分に給脂を行って下さい。



4.点検・整備

2. キャスターストップ・メカ部

スプレー式グリス(リチウム系)で直接塗布します。



⚠ 警告

給脂(グリスアップ)を行わないとスムーズに作動しない、異音が出る、軸が摩耗しリフトテーブルが床面まで上がらなくなる、軸が焼き付いてしまう等、リフト本体の寿命を縮めてしまうばかりか、ケガや事故につながる恐れがあります。

4.点検・整備

●洗車

⚠ 注意

- リモコンスイッチやシリンダには直接水をかけないで下さい。故障の原因となります。
- 高圧洗車や蒸気洗車は行わないで下さい。故障の原因となります。



- リフトメカやリフトテーブル等に付着した雪や泥等は取り除いて下さい。雪や泥が付着した状態でリフトを操作すると、誤作動によって部品やボデーが破損する恐れがあります。



- 凍結防止剤が散布されている道路を走行したときは、塩分による錆び等を防ぐため、なるべく早く洗車を実施して下さい。

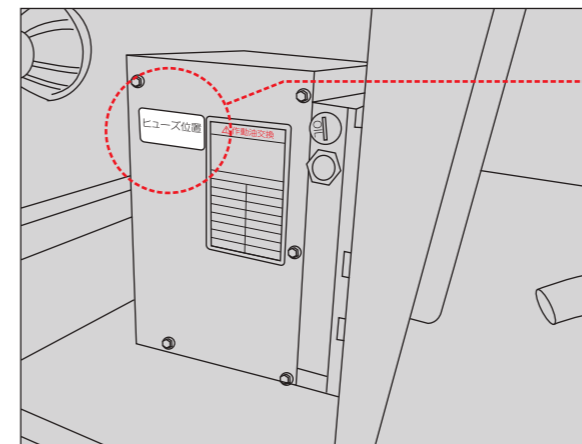
※リフトの洗車を行ったあとは、給脂（グリスアップ）を行って下さい。

4.点検・整備

●ヒューズ

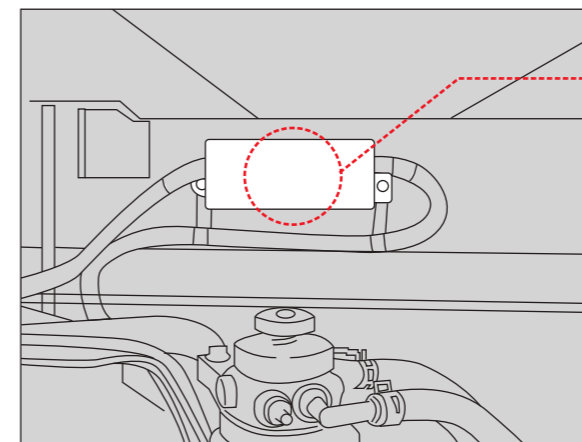
パワーユニット内、メガヒューズボックス内にリフト専用のヒューズを取り付けしています。

「パワーユニット」

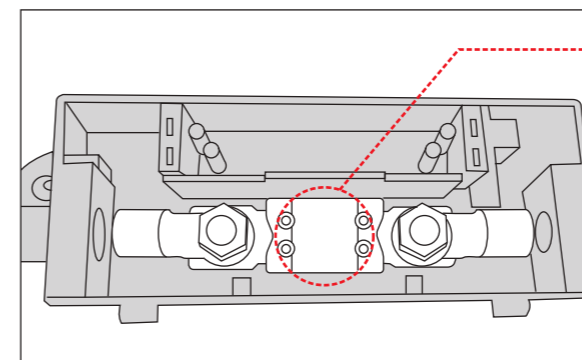


ミニブレードヒューズ (10Aミニ平型)
(パワーユニット内)

「メガヒューズ」



メガヒューズボックス
(バッテリーコードラインに取り付け)

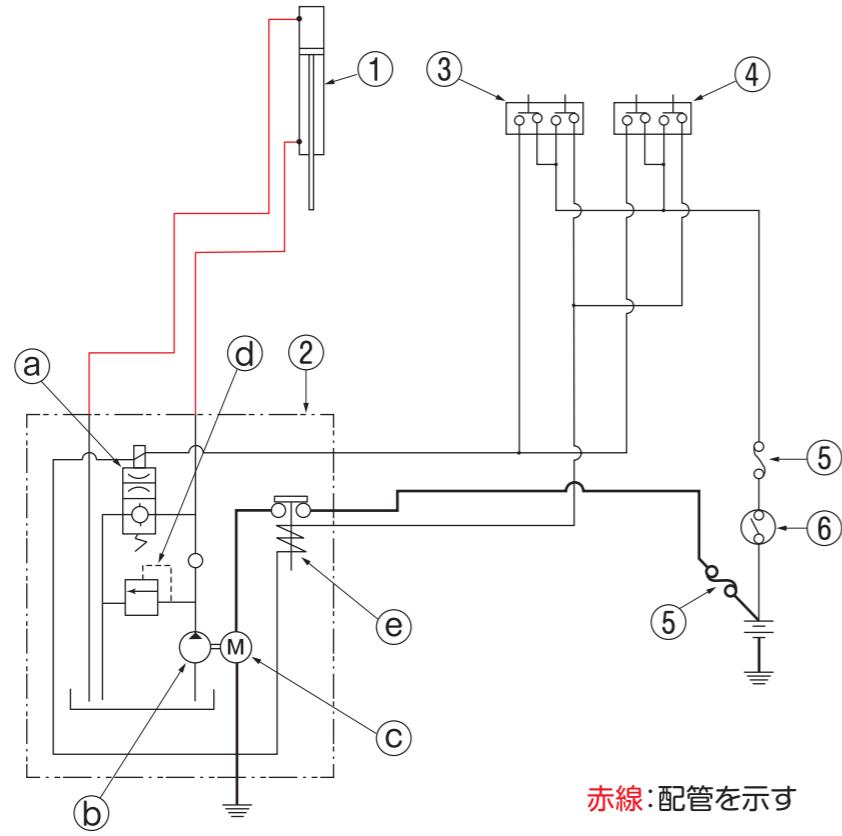


メガヒューズ
24V車:100A
12V車:200A

*キャブ内のリフトメインスイッチをONにしてもパイロットランプが点灯しない場合は、ヒューズが切れている可能性があります。

4.点検・整備

●配線図・配管図

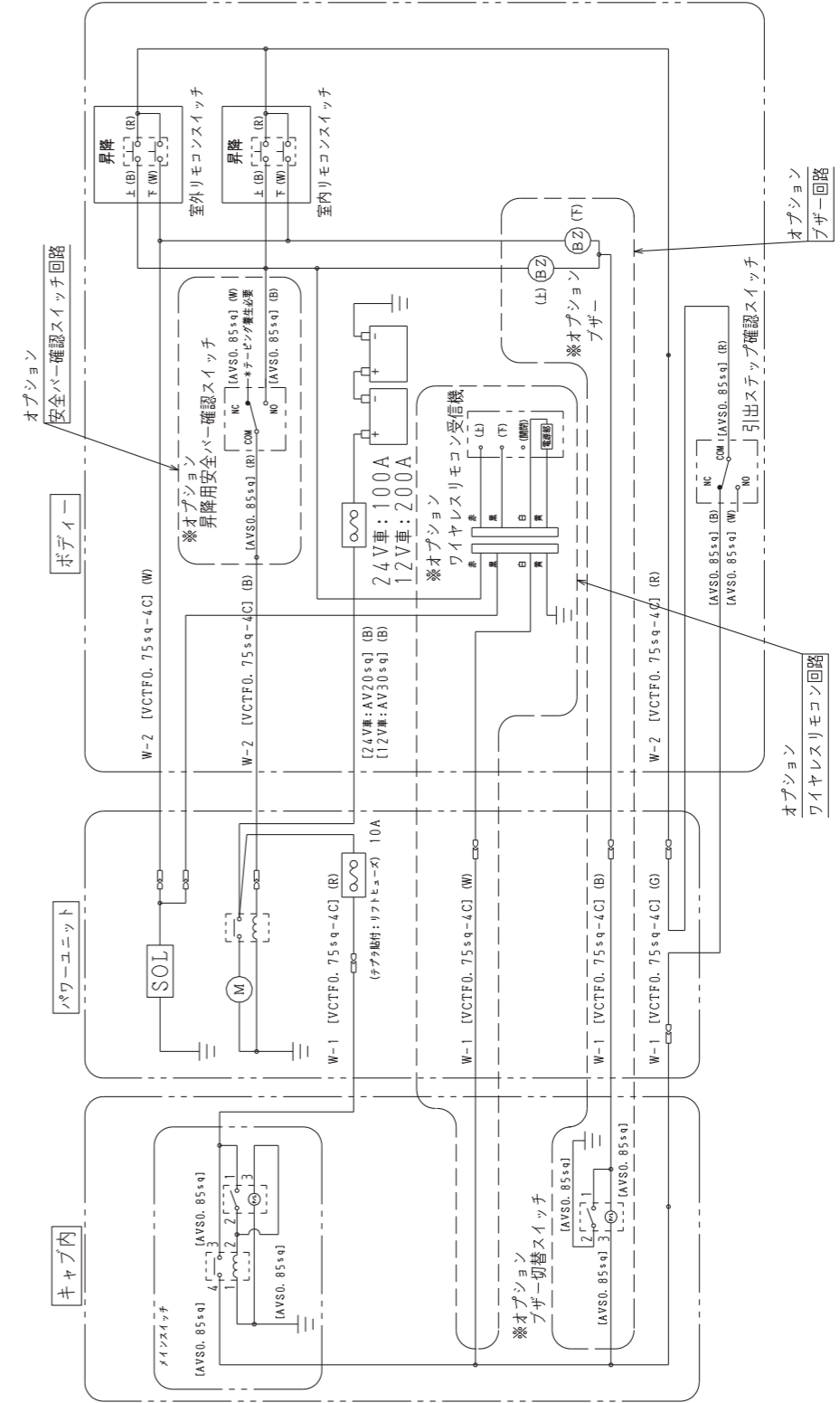


赤線:配管を示す

- | | |
|----------|------------|
| ①昇降シリンダ | ④操作スイッチ |
| ②パワーユニット | ⑤ヒューズ |
| ③操作スイッチ | ⑥リフト電源スイッチ |
- a:ソレノイドリターンバルブ
b:ポンプ
c:モーター
d:リリーフバルブ
e:マグネットスイッチ

4.点検・整備

●配線図



トラブルチェック

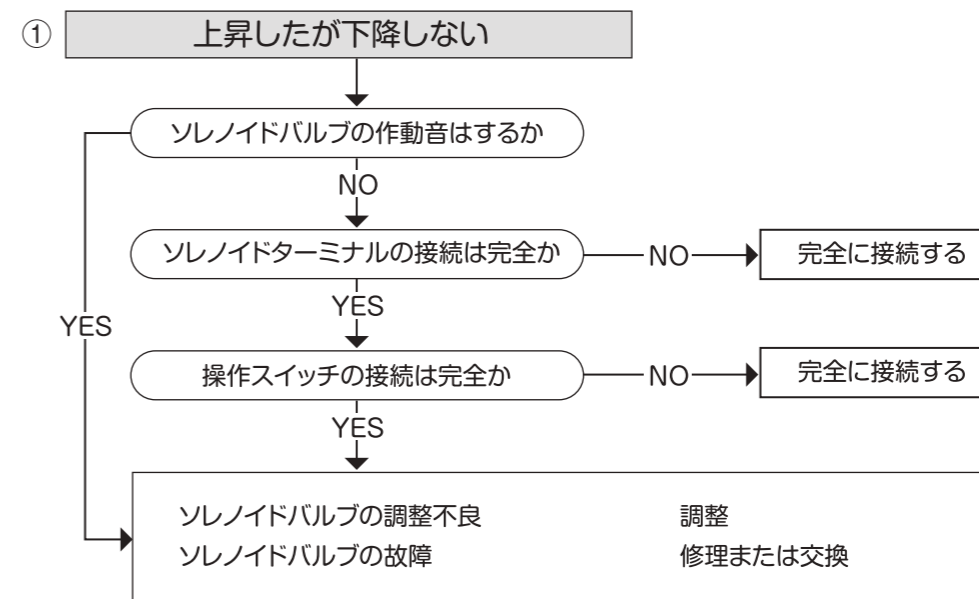
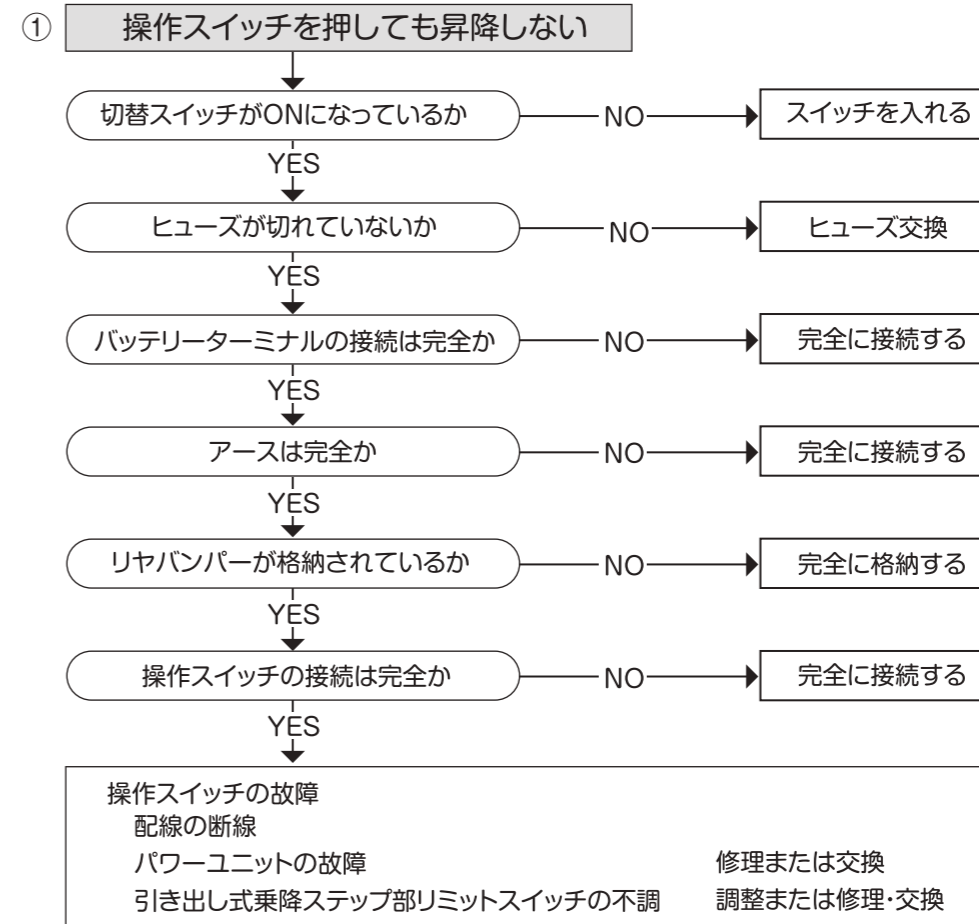
故障かな?…と思ったら

トラブルチェックに従って点検して下さい

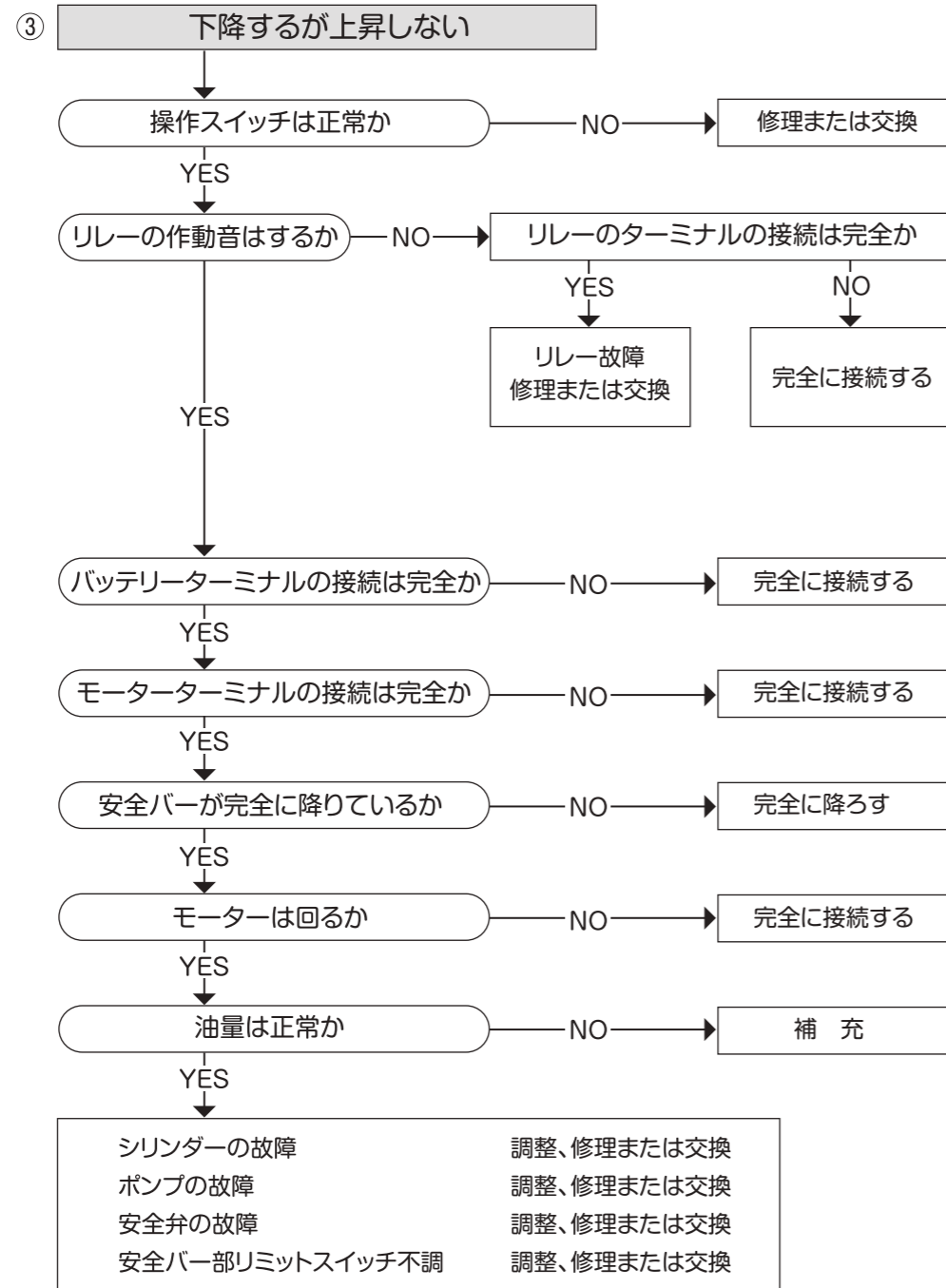
- ① 操作スイッチを押しても昇降しない
- ② 上昇したが下降しない
- ③ 下降するが上昇しない
- ④ 上昇速度が遅い 力がない 下降速度は正常
- ⑤ 下降速度が遅いまたは早い 上昇速度は正常
- ⑥ 自然落下がいちじるしい
- ⑥ リフトテーブルを引き出せない
- ⑥ リフトテーブルを格納できない

*引き出し式乗降ステップが格納されていないとリフトは作動しません。

トラブルチェック

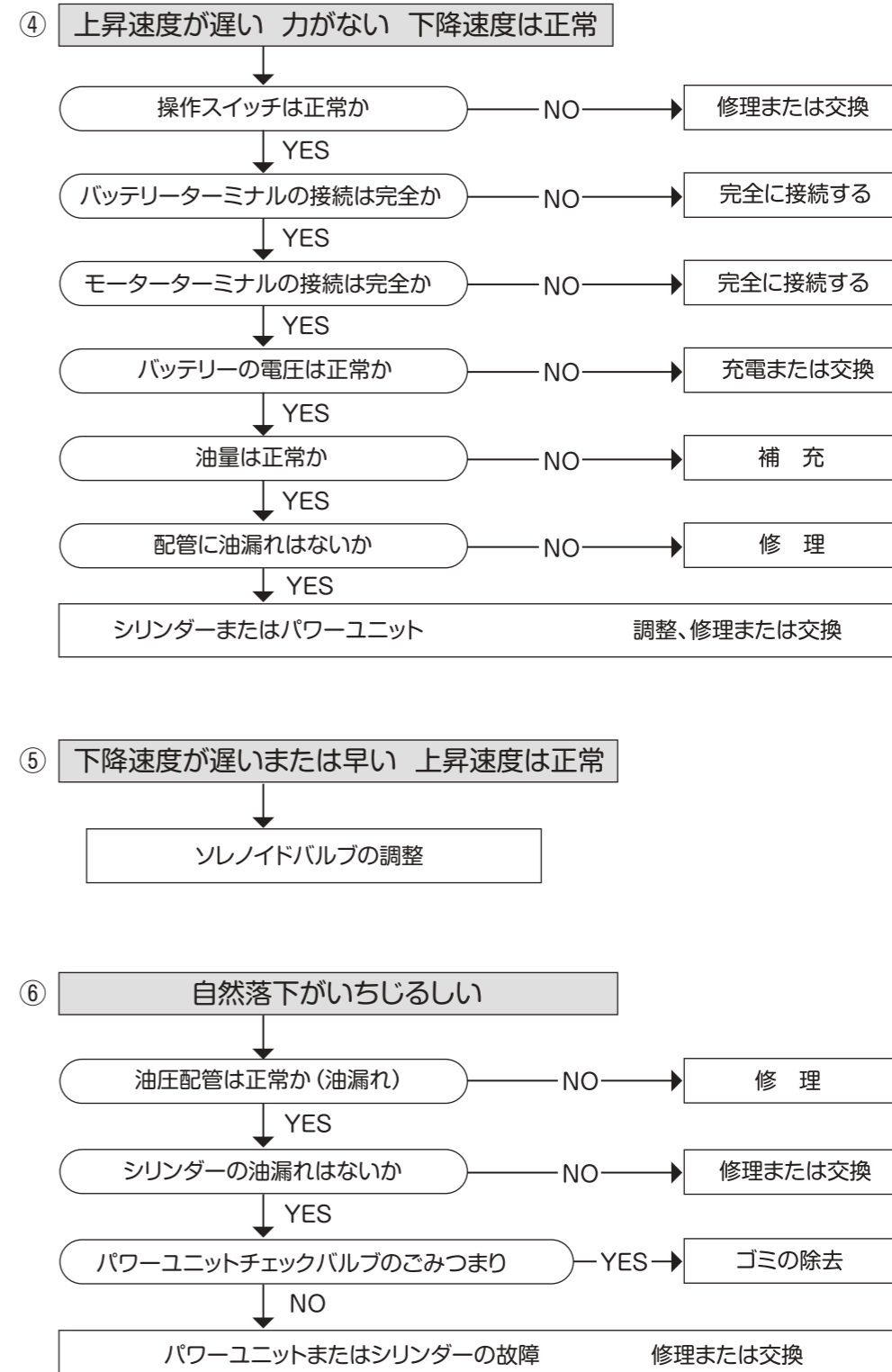


トラブルチェック

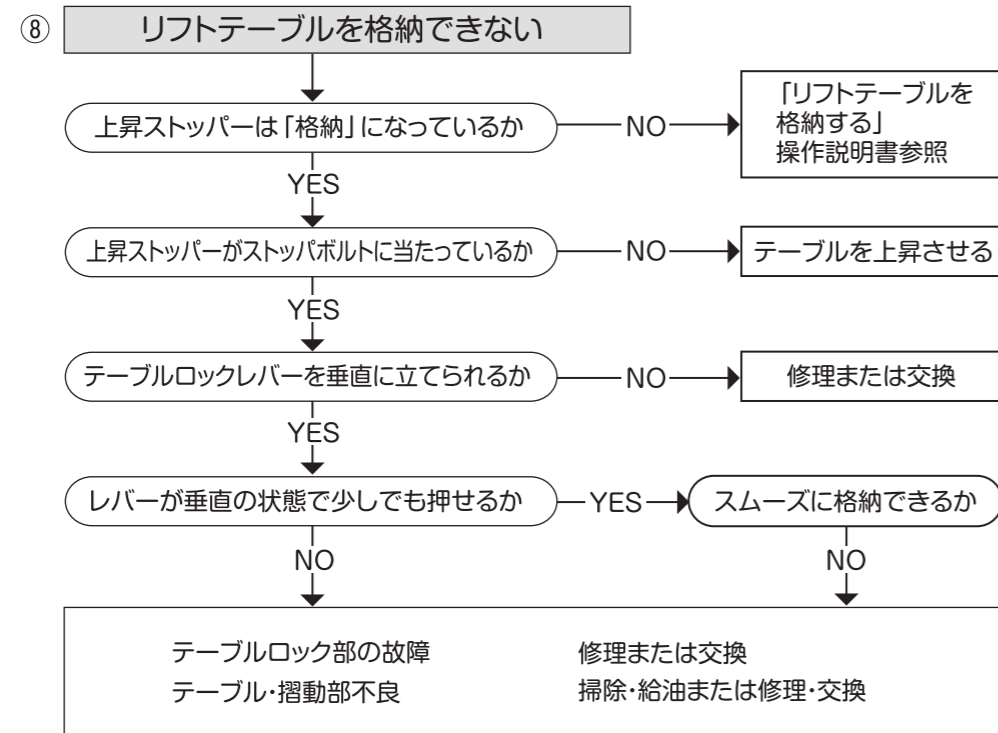
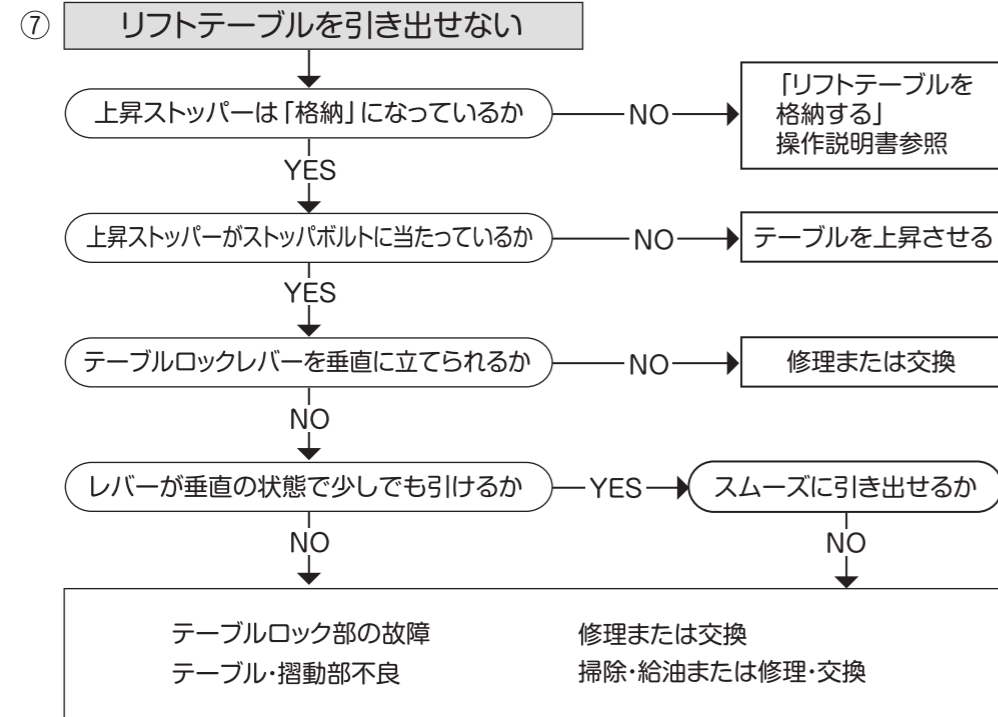


*長年使用すると経年劣化によりモーター内の電気接触が悪くなっていることがあります。
モーターが動かない時は、緊急処置としてドライバーの柄等でモーターに衝撃を与えると一時的に動くようになる可能性があります。
上記の症状が出た場合は、モーター不良ですので早急に修理を行って下さい。

トラブルチェック



トラブルチェック



4.点検・整備

●よくあるトラブル事例

事例①「室内リモコンスイッチの配線はさみ込み(断線、ショートした)」

(1) 症状

①配線が断線した場合

- 室外リモコンスイッチでは正常に動くが、室内リモコンスイッチでは動かない。

②配線がショートした場合

②-1…配線がボデー金属部とショートした場合

- ヒューズが切れてリフトが動かない。

②-2…配線が配線内部でショートした場合

- メインスイッチを入れるとリモコンスイッチを操作していないのに勝手にリフトが動く。

(2) 応急対処方法

- 配線をはさみ込んでいた状態を復旧させて下さい。
- ヒューズが切れている場合は、ヒューズを新しい物に交換して下さい。
- 室内リモコンが使えない場合は室外リモコンスイッチにて操作して下さい。

(3) 修理

- サービス工場にて室内リモコン配線を新しい物と交換して下さい。

事例②「安全バーの変形、損傷(リミットスイッチが感知しなくなった)」

(1) 症状

- リフトを「下降」させることができるが、「上昇」させることができない。

(2) 応急対処方法

- 安全バーの左端に取付けしている、リミットスイッチが感知するように処置して下さい。

(3) 修理

- サービス工場にて安全バーを修理して下さい。

事例③「引き出し式乗降ステップの変形、損傷(リミットスイッチが感知しなくなった)」

(1) 症状

- 引き出し式乗降ステップを格納しているが、リフトを「上昇」「下降」させることができない。

(2) 応急対処方法

- 引き出し式乗降ステップ奥に取付けしている、リミットスイッチが感知するように処置して下さい。

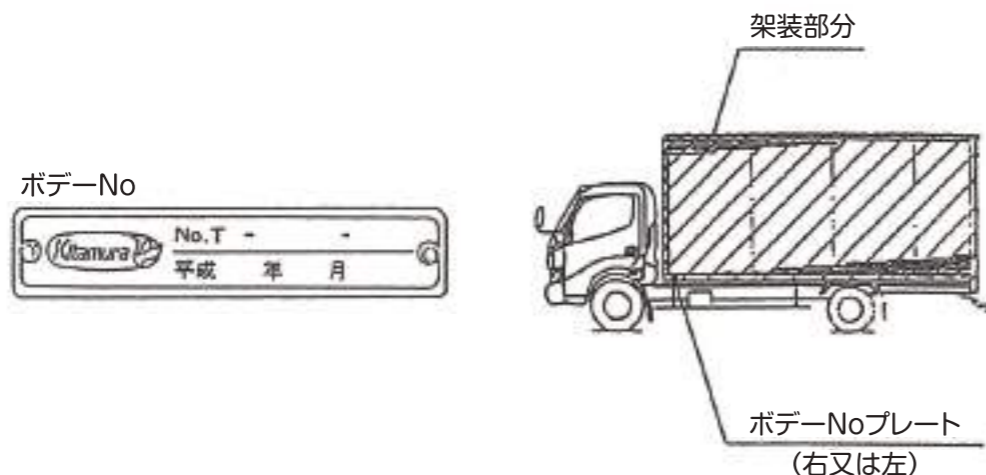
(3) 修理

- サービス工場にて引き出し式乗降ステップを修理して下さい。

アフターサービス

●補修用部品

- 下記補修用部品を手配する際は、架装部分のボデーNoプレートに記載されているボデーNoをご連絡下さい。
- 部品については弊社・部品サービス課へお申し付け下さい。



<定期交換部品>

製品の機能、性能を確保し、安全にご使用頂くため、下記部品は定期的に交換が必要です。

定期交換部品	交換時期	交換基準	備考
ワイヤ シーブ シーブ軸	・2年毎	・摩耗や損傷が見られた場合	
油圧作動油	・初回3ヶ月目 ・2回目以降 1年毎	・汚れ、劣化の明らかな場合	耐摩耗性作動油 ISO VG22相当 (冬期温度が0℃以下に 下がることの多い地域 ではISO VG15相当)
油圧ホース	・2年毎	・ひび割れ、亀裂等、異常が見られるもの。 油漏れ、にじみ等があるもの	

上記交換時期は、標準的な使用条件を基に定めたものです。著しく過酷な使用条件、使用環境の場合は早めの交換が必要となります。

アフターサービス

<補修用部品>

消耗品	交換基準
シリンダパッキン・シール類	傷、油漏れの見られるもの
ブッシュ・樹脂部品・ゴム部品	著しい摩耗の見られるもの、ガタが大きいもの 破損したもの
ヒューズ・ランプ類	切れたもの
ドアパッキン	切れたもの
コーションプレート	印字が消えたもの、損傷したもの
ワイヤレスリモコン (オプション) 用電池	電池残量の無いもの

- 定期点検が実施されていない場合、または交換基準に達している状態で使用していると、きに不具合が発生した場合は、保証期間内でも保証修理の適用外となることがあります。

●点検・修理・保証

- 定期点検や修理は当該リフトを販売致しました販売店のサービス工場、弊社指定サービス工場及び弊社各営業所へお申し付け下さい。
- 保証の内容は弊社で定めた範囲で実施致します。
- 保証の適用外
塗装・メッキ部の錆び、塩害、酸性雨による劣化、音・振動に関する内容、オイルのにじみ
- 保証されないもの
休業補償、商業補償、レンタカー代、交通費、陸送費、通信費